※評価基準
A 達成
B ほぼ達成
C 取り組みがやや不十分
D 取り組みが不十分

平成29年3月8日

※ 記載担当
【○】主担当
「△」副担当

平成28年度 自己点検評価書

[最左欄]
ローマ数字欄
認：機関別認証評価で指摘された事項（○：書面指摘,△：訪問調査時指摘）
外：外部評価委員会で指摘された事項
赤：平成28年度第1回学科長委員会以降の追加事項

						教務主事	学生主事	寮務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学民TC長	学生相談室長	教育支援室長	就職主任	教育課程部会	授業改善部会	機械	電気	制御	生化	材料	文科	理科	総務課	学生課	記入担当者報告用データ	担当者評価	項目別評価	事項別評価	次年度へ向けての対応（担当者データ）
	Ⅰ 業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置																															
	1 教育に関する事項																															
	(1)入学者の確保																															
1	Ⅰ	1	(1)	①	教員による中学校訪問	○																						教員36名で，中学校196校，塾4校を9月日～9月日の間に訪問する．このための説明会を9月1日と9月5日の2回（都合の良い方へ出席）行った．この196校のうち佐賀県33校については，合同説明会が9月4日に佐賀市で予定されていたため，8月末に訪問した．（教務主事） また、材料工学科は単独で32校を訪問した。 平成26年度から近隣の中学校へ進学説明会等への本校の教員派遣照会を行っているが、今年度初めて出前授業の要望が1中学校からあり、9月に実施した。(教務主事)	A（教）	A	A	8月下旬～9月に中学校、塾を約200校訪問する予定。、材料工学科は単独での訪問を実施予定。 平成26年度から実施している近隣の中学校の進学説明会等へ本校教員を派遣しの案内状を送付予定。(教務主事)
2	Ⅰ	1	(1)	①	入試マークシート化対応	○																		○	○		○	平成28年度入試で本校で作成する予備問題5教科を全てマークシート化し，1限目理科と2限目英語についてはOMR読込みによる機械採点を可能とした．平成29年度入試は，昨年度の，3限目数学と4限目国語をOMR読込みとすることとし，問題と解答用紙の作成を行った．なお，数学については，平成28年度の本問題の出題形式にあわせて昨年度のものを全面的に改訂して貰った．（教務主事） マークシート化に合わせて英語の予備問題を作成し、充分対応している。(文) 予備問題をマークシート形式に変更し、解答用紙も作成した。(理)	A（教） A（文） A（理）	A		マークシート採点は担当の教職員が慣れたこと，機構の採点方法が簡素化（ダブルマークと） 平成29年度入試までにOMR読込みとしていなかった社会の予備問題をOMR読込みとし、理科の予備問題を見直す予定になっている．（教務主事） 継続（文） 次年度も、平成27年度に作成したマークシート方式の予備問題を活用する。(理)
3	Ⅰ	1	(1)	②	学校説明会・見学会の実施	○																						・学校説明会・見学会（本校）10月 15日（土） 参加349名 ・進路相談会（高専祭）11月 3日（木祝） 参加80名 ・学校説明会（本校）11月 12日（土） 参加91 名 （教務主事）	A（教）	A	A	・学校説明会・見学会（本校）10月 14日（土） ・進路相談会（高専祭） 11月 3日（金祝） ・学校説明会（本校） 11月 11日（土）実施する予定 （教務主事）
4	Ⅰ	1	(1)	②	中学生やその保護者に対する学校見学対応	○																						1月末で中学校PTA及び教育委員会から6回の申込があり，全て希望日時で実施した．（教務主事）	A（教）	A		中学校及び中学校PTA等からの申込があった場合は全て受け入れることが望まれる．（教務主事）
5	Ⅰ	1	(1)	②	高専合同学校説明の実施	○																						9月4日に本校，有明高専，佐世保高専3校による合同説明会を佐賀市で開催する予定であったが，台風により中止した．10月2日には福岡市で本校，有明高専，北九州高専の県内3高専と九州地区高専，瀬戸内3商船高専合同の説明会を実施した．全体説明では171名，学校別説明には名の参加があった．（教務主事）	A（教）	A		佐賀市合同9/2（土），県内3高専（9/24）の予定．（教務主事）．
6	Ⅰ	1	(1)	②	入試説明懇談会の実施	○																						10月 24日（月）久留米市（本校），同 25日福岡市，同 26日佐賀市で実施した．参加者は59名，45名，6名であった．（教務主事）	A（教）	A		10月 23日（月）久留米市（本校）、同 24日福岡市、同 25日佐賀市で実施予定（教務主事）
7	Ⅰ	1	(1)	②	一日体験入学の実施及び募集案内	○																						8/18(木)・19(金)に実施し585名の参加があった．本年は7コマで実施しそのうち1コマを開校式と学校説明にあてた．一昨年から，6月の一日体験入学の説明のための中学校訪問はとりやめ，これまでポスター掲示依頼のみとしていた一日体験入学と学校説明会の案内を，A4のチラシを作り中学3年生一人一人に配布（327校，約24,700枚）して頂くよう中学校にお願いした．参加者のアンケートによると，A4チラシによって開催を知ったという者が約200名いた．最も多かったのは先生からで約300名．（教務主事）	A（教）	A		8/17(木)・18(金)に実施予定 中学校掲示のポスターより，中学3年生一人一人に配付されるチラシが有効と考える．（教務主事）
8	認	1	(1)	②	○一日体験入学アンケート実施、分析及び対策検討	○																						アンケート分析の速報を，5専門学科と一般文科，一般理科の学科長へお渡しした．前年同様好評であったと分析している．（教務主事）	A（教）	A		アンケートによりPDCAを行っていただきたい．（教務主事）
9	Ⅰ	1	(1)	②	小中学生を対象とした公開講座の実施														○	○	○	○	○	○	○			・一般科目（理科系）「あなたも一日サイエンティスト」7月28日(木)･29日(金）参加者 14名 ・機械工学科「ソーラーカーを作ろう！」7月27日(水）参加者 14名 ・機械工学科「ソーラーカーを作ろう！」8月 8日(月）参加者 11名 ・電気電子工学科「エレクトロニクスサマースクール」8月 2日(火） 参加者 29名 『「いっしょに、作ってみよう」ーラジオを組み立てよう一』3月25日(土)開催予定 ・生物応用化学科「化学への招待～楽しい生物・化学教室～」7月29日(金）参加者 17名 ・材料工学科「金属を溶かして青銅鏡を作製してみよう！」7月28日(木）参加者 8名 ・材料工学科「金属を溶かして青銅鏡を作製してみよう！」7月29日(金）参加者 6名 ・教育研究支援室「ミクロの世界を見てみよう」8月 1日(月)(午前）参加者 17名 ，教育研究支援室「ミクロの世界を見てみよう」1日(月)(午後）参加者 11名 ・教育研究支援室「身の回りのエレクトロニクス-ゲルマニウムラジオを作ろう-」8月 8日(月）参加者 20名 中学生向け公開講座「ソラーカーを作ろう」を7/27(月)～28(火)、） 検討したが、現時点で実施することは困難。引き続き検討する。(制御) 小中学生のための公開講座は実施していないが、久留米市の大学の単位互換授業に講師を派遣している。(文) 中学生向け公開講座「ソラーカーを作ろう」を7/27(水)、8/8（月）の2回開催した。例年2日間を2回実施していたが、今年より各1日を2回実施にした。(機械) 7月28日（木），29日（金）の2日間「あなたも1日サイエンティスト」を開催し、数学と理科の普段受けている授業とは違う数学や理科を体験してもらった。参加者14名。アンケート結果では好評であった。(理)	A（機） A（電） B（制） A（生） A（材） B（文） A（理）	A		今年度と同様の内容を実施する。(機械) 夏に中学生向け、冬に小学生向け公開講座を開催予定。(電気) 引続き検討。(制御) 生物応用化学科「化学への招待～楽しい生物・化学教室～」を次年度も実施予定（生化） 夏休みを利用した公開講座を実施予定(材料) 継続（文） 次年度も中学生を対象に「あなたも1日サイエンティスト」を開催する予定である。(理)
10	Ⅰ	1	(1)	②	女子寮のPR	○		○																				8/18(木)・19(金)開催の一日体験入学の際，学校説明で全参加者に紹介し，これとは別に午前午後各1回の寮の説明で寮務主事が説明した．（教務主事） 本校学生を対象に体験入寮を前期2回実施した。後期も2回実施する予定である。8月の一日体験入学では、女子寮を含め約100名の見学者を迎えた。後期の学校説明会・見学会でも寮の見学を実施する予定である。(寮務主事) 10月の学校見学会で約20名の見学者を女子寮に迎え、寮生会を中心に対応した。(寮務主事)	A（教） A（寮）	A		学校説明の際には，ほぼ定員の状況であるが，毎年年度初めに通学時間を基準に入寮者を決めており，必要とする女子学生はほぼ入寮できることを強調する．（教務主事） 学校見学会，説明会において寮生の協力を得ながら学生寮のPRを行い，新入生及び在校生の入寮に努める。(寮務主事)
11	Ⅰ	1	(1)	②	女子中学生向けパンフレットの活用	○																						キラキラ高専ガールを中学校訪問で中学校に、また、高専祭の進路相談、塾主催の進路相談会で配付（教務主事）	A（教）	A		キラキラ高専ガールを中学校訪問で中学校に、また、高専祭の進路相談、塾主催の進路相談会で配付するのがよいと考える．（教務主事）
12	Ⅰ	1	(1)	③	学科別パンフレットの作成検討	○													△	△	△	△	△					体験入学用に配布カードを作成。(電気) 新入生ガイダンス用，体験入学時の中学生向け，保護者懇談会向けパンフレットをそれぞれ作成配布（生化） 平成29年度学科名称変更に関して案内パンフレットを作成し、一日体験入学時、中学校訪問時、その他に配付した。また、学校全体の学科名称変更に伴い大幅に見直した。(材料)	A（教） B（電） B（生） A（材）	A	A	パンフレットが必要かどうかの検討を行う。(電気) 卒業生の活躍が分かるパンフレットを作成し広報することにより，入試倍率アップをはかる。(生化) 学科名称変更案内パンフレットを新規追加作成する。(材料)
13	Ⅰ	1	(1)	③	中学校への本校紹介情報充実	○																						中学生を対象としたリーフレットを一部改訂した。(教務主事)	B（教）	A		中学生向けのリーフレットを，卒業生の活躍を加えるなど改訂して頂きたい．（教務主事）
14	Ⅰ	1	(1)	③	機構の広報活動調査とそれらの活用	○																					○	一日体験入学や学校説明会での高専制度に関する説明で，機構のWebページ掲載の学生数，教員数，進学率等のデータを利用している．（教務主事）	A（教）	A		機構のWebページ掲載のデータには高専の概要を知るのによいデータ（学生数、教員数、進学率等）がある．（教務主事）

15	Ⅰ	1	(1)	④	卒業認定・学士授与ポリシー（DP）,教育課程の編成・実施ポリシー（CP）， アドミッションポリシー（AP）の策定と公表（第1回学科長委員会 資料3-01）	○			○										○	○	○	○	○				○	平成28年度中の策定が法律で義務づけられており，策定し3月2日の学科長委員会で承認された．3月中に公開する．（教務主事） 後期、専攻科委員会で検討、3月に確定、公開に向け準備中。（専攻科主事） 教務主事室で作成した案を元に修正案を提出中。（電気） ポリシーを策定し，公開した（生物応用化学科） 学科会議において検討を行った。（材料） 検討していない。（文）	A（教） B(専) A（機） B（電） A(生) A（材）	A	B	他高専の書き方を見て，必要であれば改訂する．（教務主事） 策定し公表した。（機械） （本年度中に策定終了と思われるため）特になし。（電気） 特になし(生化) 3ポリシーの周知徹底をはかる。（材料）
16	Ⅰ	1	(1)	④	アドミッション・ポリシーに基づく入学者選抜の実施	○			○																			学校要覧(P.2)，本科募集要項（見返し），入学案内リーフレット（P.1）に記載し，教職員へ周知するとともに，社会へ公表している．受験生とその保護者に向けてはこれらに加えて，学校説明会や一日体験入学の際にスライドで説明している．（教務主事） 前期入試（学力、推薦）、後期入試ともにアドミッション・ポリシーに従って実施した。（専攻科主事）	A（教） A（専）	A		入学試験をこれまで通り，アドミッション・ポリシーに従って実施する．（教務主事）
17	認	1	(1)	④	△ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝﾎﾟﾘｼｰに対応した入学者選抜基本方針の策定及び周知方法検討	○			○																			現ポリシーの周知は行っているが，入学者選抜基本方針の策定は未検討．（教務主事） 入試運営委員会で募集要項の記述について検討、3月に入学者選抜基本方針の策定予定（専攻科主事）	C（教） B（専）	B		次の機関別認証評価までに入学者選抜基本方針を策定する必要がある．（教務主事）
18	Ⅰ	1	(1)	④	入試成績と入学後の成績調査に基づく入試制度の検討	○			○																			教務主事が，入試成績と入学後の成績および進学先のデータの分析を一部行った．（教務主事） 前期入試から英語学力をTOEICスコアに変更した。入試データ分析の結果を次年度の募集要項に反映する。入学後の成績との関連については未対応。（専攻科主事）	C（教） C（専）	C		入試成績と入学後の成績及び進学先のデータを分析し，傾斜配点や数学，理科での足きりを検討頂きたい．（教務主事）
19	認	1	(1)	④	入学動機に関するアンケート調査、分析及び対策検討	○																						新入生に対し機構本部所定の質問事項のアンケートを4月末に実施．大きな傾向変化は認められなかった.（教務主事） 専攻科生へのアンケートで入学動機についてデータ蓄積を継続中。顕著な変動な認められず。（専攻科主事）	A（教） B（専）	A		新入生に対し機構本部所定の質問事項のアンケートを実施し，分析と対策の検討をお願いしたい．（教務主事）
20	Ⅰ	1	(1)	⑤	数学診断テストの実施による入学者学力水準確認（I1(2)②に再掲）	△																			○			専攻科在学生と本科低学年児の成績の関連については分析資料がない。（専攻科） 学年及び各学科の学力と特徴を分析、確認して、授業に活かした。また、経年変化も調査している。(理）学年及び各学科の学力と特徴を分析、確認して、授業に活かした。また、経年変化も調査している。（理）	C（専） A（理）	A	B	学生のポートフォリオなど本科低学年資料まで活用するかどうか今後検討(専攻科主事） 次年度も、学年及び各学科の学力と特徴を分析、確認して、授業に活かす。（理）
21	Ⅰ	1	(1)	⑤	アドミッション・ポリシーの公表	○			○																			募集要項では見返しのページに，本校Webページでは「入学案内」の最初の項目として掲載している．（教務主事） 専攻科も本科に同じ。（専攻科主事）	A（教） A（専）	A		3つの方針とあわせて広報を行う．（教務主事） 専攻科も本科に同じ（専攻科主事）
22	Ⅰ	1	(1)	⑤	志願倍率向上策の検討・実施	○																						昨年度1日体験入学アンケートに基づき，本校の概要を説明する「学校説明」を開校式に引き続き行った．自由記述をみると概ね好評であったようである．また，このアンケートで「ぜひ受験したい」は僅差ながら過去最高の比率であった．（教務主事） 専攻科修了後の進路のWebページやリーフレット掲載などで継続して専攻科の利点を周知する。（専攻科主事）	B（教） B（専）	B		平成29年度入試は昨年度より志願者が12名増え365名であった．引き続き，中学生の進路としては少数派である高専進学のメリットをアピールする．（教務主事）
23	Ⅰ	1	(1)	⑤	入試志願状況の分析と入試広報戦略の見直し（第1回学科長委員会）	○																					○	平成24年度から直近の平成28年度入試まで，志願倍率は2.1，2.1，1.7，,2.0，1.8と変化してきたが，平成26年度の1.7倍は久留米市および筑後地区の減少，平成28年度の低下は久留米市及びその北側と東側地域と福岡南部地区の減少であることが地域別の志願者数の変化からわかっていいるが，その原因までは明らかに出来ていない．（教務主事）	C（教）	C		これまでは、一定の傾向を見出せなかった。次年度は新しい視点で検討いただきたい。（教務主事）
24	Ⅰ	1	(1)	⑤	専攻科入試 英語科目評価の外部評価テスト導入	△			○															△				前期及び後期入学試験で導入した。実施上の問題はなく実施した。（専攻科主事） 専攻科入試の英語試験としてTOEICを導入した。（文）	A（専） A（文）	A		継続（文）
25	Ⅰ	1	(1)	⑤	男女別入学志願状況の把握	○																					○	入学志願者の男女別人数は，平成元年分から一覧表が作成されている．これによると，平成23～平成25年度は平均82人であるのに対し，平成26～28年度は平均72人で約12%の減少，志願倍率は平均2.06倍から1.82倍へ，同様に約12%の減少であり，女子志願者の減少は総志願者の減少によるものと考えられた．（教務主事） 平成２８年度の男女別入学志願状況については、データとしてまとめ、把握している。（学生課）	B（教）	A		男女別入学志願状況については、データとしてまとめ、把握していく予定。（学生課）
26	Ⅰ	1	(1)	⑤	女子学生のための教育環境の整備等の実施（Ⅰ1(6)③に再掲）	○																				○		樹木剪定，屋外照明の大幅増設で安全性の確保を行った．（教務主事） 検討中である。（総務課）	B（教）	B		女子トイレの改善が望まれる．（教務主事）
27	Ⅰ	1	(1)	⑥	過去の入試問題の公表又は開示	○																						推薦入試（1月中下旬実施）の適性検査（数学）の問題を平成26年度～平成28年度分について本校Webページに掲載している．学力入試については．同じく平成26年度～平成28年度分の問題と解答が掲載されている機構本部のWebページへリンクを設定している．また，推薦，学力とも最近の問題実物を一日体験入学の際に展示及び高専祭時の進路相談で配付している．（教務主事） 専攻科学力入試問題は教務係窓口で希望者に開示している。（専攻科主事）	A（教） A（専）	A	A	推薦入試の適性検査（数学）の問題を本校Webページに掲載している．学力入試については同じく問題と解答が掲載されている機構本部のWebページへリンクを設定している。また、推薦、学力とも最近の問題実物を一日体験入学の際に展示及び高専祭時の進路相談で配付する予定．その他，専攻科や本科編入学試験の問題のWeb乗で公開する時期がきているのかも知れない．（教務主事）
28	Ⅰ	1	(1)	⑥	実入学者数の適正化	○			○																			平成26年度入試で辞退4名入学206名，平成27年度入試で辞退8名入学205名（機械と電気で追加合格各1名）と辞退者が増える傾向にあったので，平成28年度入試では各学科定員＋3名の215名としたところ，辞退は2名で213名の入学となった．その結果43名のクラスが3つできた．この人数で特に支障は生じていないと思われる．平成29年度入試では学力入試欠席者がおおかったことから，昨年度に続き各学科定員＋3名の215名としたH28年度同様，（教務主事） 専攻科入学者はおおむね定員の150%程度で推移しており、現状規模で運営に問題ない。（専攻科主事）	A(教） A（専）	A		入学辞退者を予測することは難しいが，諸状況から最善と思われる数を提案する．（教務主事）
29	Ⅰ	1	(1)	⑥	有明高専との福岡市入試同一試験会場開設	○																						平成29年2月19日に実施する平成29年度学力入試を福岡市に於いて有明高専と同一会場で行う．今回の看護師は本校が手配を行う．（教務主事）	A（教）	A		平成30年に実施する平成30年度学力入試を福岡市に於いて有明高専と同一会場で行う予定。看護師は有明高専が手配を行う予定（教務主事）
			（2）教育課程の編成																													
30	Ⅰ	1	(2)	①	高度化再編と材料工学科の学科名変更にむけた対応	○																	○					材料工学科の材料システム工学科への学科名称変更が文科省から認められ，募集要項に変更予定であることを明示した．また，中学校訪問の際の持参資料にこの学科名称変更を説明する文書を加えた．（教務主事） 材料システム工学科への対応は5年先の学年進行までに専攻科でも対応を検討する。（専攻科主事） 学生の学会発表、国際会議など英語でのプレゼンなど継続して頻度の増加に努める。（専攻科主事） 材料システム工学科への学科名称変更に関連する事前伺いは、設置計画の内容に修正が必要とされる意見はついていないので、「報告」による設置が可能との文部科学省からの回答があった。（平成28年7月11日）（材料） 4月からの学科名称変更に対応するように、各種書類、ホームページの変更、在校生・保護者への通知などの対応を行った。(材料)	A（教） B（専） A（材）	A	A	学科名変更により時代の要請に応える学科内容になったことを広報する．（教務主事） 新学科名称の広報に努める。（材料）
31	Ⅰ	1	(2)	①	材料システム工学科のカリキュラム変更対応（第3回学科長委員会）	○																	○					6月の学科長委員会でカリキュラム変更に伴う学科課程表の変更を承認し，7月の学科長委員会で材料システム工学科としての教育目的・教育目標について承認した．（教務主事） 学科名称変更にかかるカリキュラム変更を教務委員会、学科長委員会で審議、了承された。（材料）	A(教） A（材）	A		学年進行に対応していく．（教務主事） 引き続き新カリキュラムへの対応を行う。（材料）
32	Ⅰ	1	(2)	①	制御情報工学科のカリキュラム変更対応（第3回学科長委員会）	○															○							6月の学科長委員会でカリキュラム変更を承認した．（教務主事） 新カリキュラムの編成を完了した。H29年度より実施。（制御）	A（教） A（制）	A		過年度学生の履修科目に注意する．（教務主事） 新カリキュラム実施において、留年生や復学した学生に対して個別カリキュラム編成のなどで対応する。（制御）
33	Ⅰ	1	(2)	①	学科の大括りやコース制導入高専の動向調査	○																						実施している北九州高専と有明高専から，「低学年に専門科目がないため時間割が空く」「志望コースの決定が成績によるため部活を辞めて勉強するという学生が少なからず出た」「推薦でも入学後のコース選択となるため志願者が減った」などのデメリットも伝わっており，メリット・デメリットについて情報収集を行っている．（教務主事）	B（教）	A		平成29年度も実施している北九州高専と有明高専からメリット・デメリットについて情報収集を行う．（教務主事）
34	Ⅰ	1	(2)	①	専攻科生の学位授与機構への学位審査申請				○																			特例適用専攻科修了見込みでの申請ガイダンスを2回実施し、専攻科研究論文指導教員等の協力を得て平成28年度修了見込み者も手続きした。（専攻科主事）	A（専）	A		
35	Ⅰ	1	(2)	②	教育課程表及び教務に関する規程の諸問題の検討	○											△											教務留意事項としてあげていた，「5分の4以上出席」の解釈，進路変更による学年修了．学籍異動および特別措置の4項目を，「及落査定および卒業査定に関する申し合わせ」にまとめたものが，4月の学科長委員会で承認された．（教務主事）	A（教）	A	A	平成30年度からMCCの完全実施となることから，MCCの到達目標をもれなく取り扱う必要がある．（教務主事）

36	Ⅰ	1	(2)	②	新入生「数学」学力診断テストの実施及びその結果を反映した授業構成実施																								○			各学科の学力と特徴を分析、確認し、授業に活かす。(理)	A(理)	A		次年度も各学科の学力と特徴を分析、確認し、授業に活かす。(理)
37	Ⅰ	1	(2)	②	数学診断テストの実施による入学者学力水準確認(I1(1)⑤再掲)	△																							○			1月12日(木)に実施。学年及び各学科の学力と特徴を分析し、授業に活かす。(理)	A(理)	A		次年度も各学科の学力と特徴を分析、確認し、授業に活かす。(理)
38	Ⅰ	1	(2)	②	「数学」「物理」学習到達度試験実施及びその結果に基づく授業方法改善の検討																								○			各学科の学力と特徴を分析、確認し、授業に活かす。(理)	A(理)	A		次年度も学年及び各学科の学力と特徴を分析、確認して、授業に活かす。(理)
39	Ⅰ	1	(2)	②	「物理」「化学」の学生の関心を高める実験方法、項目の検討																								○			[物理」では応用物理実験において、教育研究支援室の協力により自作した装置を用いた。学生が自分で装置を組み立てるようになっており、実験における装置の初期設定や調整を学生自身が行った。これにより、実験室に行ってそこにある装置でデータを取るだけではなく、実験に際して初期設定・測定時の調整などの大切さ・難しさを体験させた。(理)	A(理)	A		次年度も学年及び各学科の学力と特徴を分析し、実験の項目・装置の改善を進め授業に活かす。(理)
40	Ⅰ	1	(2)	②	TOEICおよび英語外部評価テスト(1,3年)の実施	○																						○				・英語外部評価テストは1年生は4月7日，3年生は6月29日に実施した．(教務主事) ・TOEIC IPテストは4/16，10/15，1/14に実施した。また，TOEIC受験を奨めるため4年生に1回に限り受験料を後援会予算の全額補助とした．また，公開テストについても 11/20と 3/12実施分を団体申込とし後援会の補助としたため11/20実施分、3/12実施予定分は約100名の受験及び申込があった．なお，平成28年度に限り5年生と専攻科生も補助の対象とした．(教務主事) 英語外部評価テストは1年生は4月、3年生は6月に実施した。(文)	A(教) A(文)	A		・英語外部評価テストは1年生は4月7日、3年生は6月21日に実施予定(教務主事) ・年3回行っていたTOEIC IPテストの内2回は公開テストに変更し実施予定．TOEIC受験を奨めるため4年生に、1回に限り受験料を後援会予算の全額補助とする．(教務主事) 継続(文)
41	Ⅰ	1	(2)	②	英語プレコンへの参加支援		○																					△				九州沖縄地区国立高等専門学校英語弁論大会に3名出場した。(学生主事) 今年度は該当なし。(文)	B(学) B(文)	A		今年度同様に支援する。(学生主事) 今年度は出場できなかったが、英会話部では意欲を持つ学生がおり、顧問やネイティブの先生の支援を続けているので、来年度は出場予定である。(文)
42	認	1	(2)	③	学生の授業評価アンケート実施、分析及び対策検討																	○										昨年度の集計に誤りがあったため，前期中に実施できなかった．現在集計中である．年度内に実施したい．(授業)	B(授)	B	B	Web上で回答できないか検討する．(授業)
43	外	1	(2)	③	学生の授業評価アンケート項目の見直し検討(H25外部評価委員会)																	○										設問B[1]を「シラバスは参考になった」を「シラバスに沿って行われているか」に変更した．(授業)	A(授)	A		継続的に見直しを行う(授業)
44	Ⅰ	1	(2)	③	学生の授業評価アンケート結果に基づく教員の自己評価実施																	○										12月に実施した．(授業)	A(授)	A		継続して実施するが電子的な回収について検討する．(授業)
45	認	1	(2)	③	卒業生・修了生アンケートの実施、分析及び対策検討					○																						H27年度アンケートを解析・分析し、その結果を第1回自己評価検討委員会及び第1回学科長委員会で報告した。(企画主事)	A(企)	A		H28年度アンケートを解析・分析し、必要に応じ検討を行う。(企画主事)
46	認	1	(2)	③	△卒業生・修了生アンケート項目の具体化検討					○																						記載内容について見直しを行ったが、具体化までは検討できなかった。(企画主事)	C(企)	C		引き続き検討を行う。(企画主事)
47	Ⅰ	1	(2)	③	卒業生・修了生アンケート 修了生課外活動支援項目記載方法検討		○		○	△																						課外活動に関するは、〇十分であった　〇ふつう　〇不十分であった　課外活動に関する支援に対する要望(記入欄)(学生主事) フォーマットを検討し企画委員会で審議、改定した。(企画主事)	B(学) A(企)	A		アンケート内容の検討を行う。(学生主事) 本年度で終了。(企画主事)
48	Ⅰ	1	(2)	③	卒業生・修了生アンケート用紙の未記入者防止対策					○																						フォーマットを検討し企画委員会で審議、改定した。(企画主事)	A(企)	A		本年度で終了。(企画主事)
49	Ⅰ	1	(2)	③	授業改善を行うためのPDCAサイクル運用																	○										年度計画通り実施している．ただし，授業評価アンケートをシラバスなどに反映するには2年を要するため，事務負荷の軽減も考慮に入れ，Office365またはBlack Boardを用いて電子的に回収できないか本年度検討する．(授業)	C(授)	B		年度内にPDCAサイクルを運用できるよう．検討する.
50	Ⅰ	1	(2)	③	学習教育目標の達成度評価方法の検討	○			○																							未検討。(教務主事) 専攻科の学習教育目標は各コースで対応しているJABEEの学習教育到達目標であり、シラバスに従った評価及び各コースで構築している。達成していることの論拠はJABEEの修了認定で担保している。(専攻科主事)	D(教) B(専)	B		平成29年度に検討していただきたい。(教務主事)
51	Ⅰ	1	(2)	④	全国的な競技会やコンテストへの参加支援		○																									スポーツ関係では、団体としては男女バレーボール部・男子ハンドボール部が全国高専体育大会に出場した(女子バレーボール部は全国大会優勝)。全国大会出場は逃したものの、硬式野球部が九州沖縄地区高専体育大会において準優勝だった。個人としては、陸上競技、水泳、柔道において全国大会出場を果たした。コンテストには、第10回アジア太平洋情報オリンピック(銀メダル)、スーパーコン2016(全国優勝)、2015柳川ソーラーボート大会(予選通過、学生3位)、ロボットコンテスト、プログラミングコンテストに出場した。「高専生向けNImyRIO組込システム開発コンテスト最終発表会」に参加予定。(学生主事)	A(学)	A	A	今年度同様に支援する。(学生主事)
52	Ⅰ	1	(2)	⑤	社会奉仕体験活動や自然体験活動への参加支援		○																									学生会のボランティア活動として、6月・平成29年1月に献血、7月に清掃活動を実施した。7月の清掃活動には約120名が集まり、市道、宮の陣駅周辺、一番街の清掃も行った。平成29年3月に清掃活動を計画中である。(学生主事)	A(学)	A	A	今年度同様に実施予定。(学生主事)
53	Ⅰ	1	(2)	⑤	1年生合宿研修の実施		○																									4月22日、23日に実施した。今年度も学生会主導で実施し、中央執行委員の良い研修となった。(学生主事)	A(学)	A		今年度同様に実施予定。(学生主事)
54	Ⅰ	1	(2)	⑤	特別活動の実施	△	○																									ほぼ週に一度のペースで特別活動を実施し、教務関連事項や学生生活にかかわる情報を学生に周知している。そのほかにも交通講話・暴力団排除教育・ケータイ安全教室(1年生対象)、ビジネスマナー講習会(4年生対象)を実施した。ビジネスマナー講習会に関しては自由参加にもかかわらず16？名の学生が参加した。(学生主事)	A(学)	A		今年度同様に実施予定。(学生主事)
55	Ⅰ	1	(2)	⑥	学生自身による達成度点検の実施																		○	○	○	○	○					機械コースの専攻科1年生全員に対して、本科での達成度自己評価を実施した。(機械) 専攻科の中間面接を6月に行った。3月に修了面接の予定。また、JABEE審査を受けて専攻科1年時の点検実施について学科会議で議題には上がったが、時間的な余裕がなく詳細は未検討(電気) 専攻科生1年生による自己達成度点検を実施した。(制御) 学年毎の評価が分かるようにJABEE自己点検評価シートを改訂し実施(生化) 専攻科生を対象にJABEE基準の達成度を点検する一覧表作成、実施(材料)	A(機) C(電) A(制) A(生) A(材)	C	B	次年度も、今年度と同様に機械コースの専攻科1年生に対して、本科での達成度自己評価を実施する。(機械) 具体案の検討を行う。(電気) 次年度も専攻科1年生による自己点検を実施する予定。(制御) 次年度も継続して実施する。(生化) 専攻科生を対象にJABEE基準の達成度を点検する一覧表作成、実施、不具合がある部分は適宜修正を加える。(材料)
56	Ⅰ	1	(2)	⑥	専攻科入学生・修了生自身による総合達成度評価の実施及び内容の検討				○																							各JABEEプログラムでの対応のみ。その他未検討。(専攻科主事) 今年度は予定なし。(電気)	C(専)	C		
56	認	1	(2)	⑥	専攻科修了生の就職先企業を対象としたアンケート調査実施、分析及び対策検討																		○	○	○	○	○					実施を検討中(機械)。 今年度は予定なし。(電気) H27年度実施したが、今年度実施する予定はない。(制御) JABEE修了生アンケートを実施分析した結果，英語教育充実させるためネットアカデミー活用を推進中(生化) 該当なし(材料)	A(機) C(生)	A		今年度カリキュラム改訂後初めての修了生が出るので、次年度にアンケートを実施したい。(機械) 次年度も現時点では予定なし。(電気) 英語力向上のために，さらにネットアカデミー活用をはかっていく(生化) アンケート実施を検討する。(材料)
			(3)優れた教員の確保																																	
57	Ⅰ	1	(3)	①	教員の適正配置(教授・助教数,学校・学科教員数)	○																	○	○	○	○	○	○	○			配置が決まっていなかった教員定員1を材料工学科の定員とし，機械11，電気10，制御11，生化12，材料11とした．(教務主事) 昇任人事を行ったことで，職位別人数が平成27年4月の教授27，准教授 37，講師 1，助教 12 (校長を除き計77)から，教授 29，准教授 32，講師 7，助教 7(校長を除き計74)となった．(教務主事) 2015年度末助教転籍により2016年度助教採用し、南山助教が講師昇任に伴い、教授4名、准教授5名、講師1名、助教1名。(機械) 平成28年3月に助教が退職したため、平成28年4月に准教授を1名採用した。また、休職者の枠で6ヶ月任期の工業英語担当教員(外国人教員)を1名採用し、学科内の教員不足が多少改善した。(電気) 今までの配置は適正だったが、教員の転出による欠員が生じており、現在教員公募を適切に行っている。(制御) 萩原助教の講師昇任に伴い、助教が2から1に減。(生化) 教授2名、准教授4名、助教1名、特任教授1名、嘱託教授1名　平成28年5月逝去教授の補充、平成27年度末退職教授の補充、学科名称変更にあわせて校内配置の変更により1名増員、合計3名の新規採用職員の採用公募を行い、4月から教授1名助教1名(女性)の採用が決まった。残り1名の新規採用職員については年度内に再公募を行う予定。(材料) 教授4、准教授5、講師2、助教1で、適正である。(文)	A(教) A(機) A(電) A(制) A(生) A(材) A(文)	A	A	平成29年4月は，教授 30，准教授 34，講師 5，助教8となる見込み．(教務主事) 昇任の検討要である。(機械) 現在のところ、新たな採用予定は確定していない。(電気) 今年度教員公募により新任教員(H29.4より)の採用を決めた。次年度は新任教員のチュートリアル、仕事環境の整備を行う。(制御) 来年度新規採用の予定無し(生化) 新任教員のスムーズな教育研究が進むように適正配置を行う。(材料) 継続(文)

58	Ⅰ	1	(3)	①	退職教員の1年間不補充への対応検討	○													○	○	○	○	○	○	○			平成28年3月に3名が定年退職した．このうち1名は短時間雇用を選ばれ平成29年度に後任を採用予定である．もう一名は一般文科国語の2名の内の1名であり，平成30年度は国語は常勤1名となるため，平成30年度は引き続き非常勤での担当を校長の指示によりお願いしている．（教務主事） 該当なし。（機械） 予定なし。（電気） 該当なし。（制御） 3年後に定年を迎える教員がいるが、未検討。（生化） 短期間雇用教員にて対応（材料） 該当なし。（文）	B（教） A（機） A（材）	A		平成29年度末（平成30年3月）に国語の先生1名の再雇用が終了する．この先生の後任補充は1年できないので，国語科教員が1名のみとなることに留意する．（教務主事） 該当なし。（機械） 該当なし。（電気） 来年度も該当無し（生化） 該当なし（材料）
59	Ⅰ	1	(3)	①	公募制による教員採用	○													○	○	○	○	○	○	○			材料工学科（平成29年４月より材料システム工学科）の3名，制御情報工学科1名，平成29年3月までの任期付き電気電子工学科の教員1名の公募を行った．（教務主事） 助教の転籍に伴い助教を公募した。（機械） 平成28年3月に助教が退職したため、平成28年4月に准教授を1名採用した。また、休職者の枠で6ヶ月任期の工業英語担当教員（外国人教員）を1名採用した。いずれも公募によるもの。（電気） 教員公募を適切に行っている。（制御） 本年度該当なし（生化） 平成28年5月逝去教授の補充、平成27年度末退職教授の補充、学科名称変更にあわせて校内配置の変更により1名増員、合計3名の新規採用職員の採用を公募制により実施した。（材料） 今年度は公募の予定はない。（文） 今年度は公募はなかった。（理）	A（教） A（機） A（電） A（制） A（材） A（文）	A		材料システム工学科で助教または講師で公募予定．（教務主事） 該当なし。（機械） 現在のところ、新たな採用予定は確定していない。（電気） 今年度教員公募を行った。次年度は公募予定ない。（制御） 来年度新規採用の予定無し。（生化） 該当なし（材料） 来年度は該当なし。（文）
60	Ⅰ	1	(3)	①	多様なキャリアを有する教員の採用	○													○	○	○	○	○	○	○			平成29年3月までの任期付きで電気電子工学科の技術英語担当教員に，経済を選考した米国人を採用した．任期は平成29年9月まで延長することになった．（教務主事）） 民間企業経験者が3名いる。（機械） 対応済み。（電気） 対応済み。（制御） 現状、大学経験者3人、企業経験者4人、次回新規採用は5年後。（生化） 専門学科教員については技術士の資格を博士の学位と同等に扱い、実務経験者の採用を可能としている。民間企業を経験した教員が4名（材料） すでに採用している。（文）	A（教） A（機） A（電） A（制） A（生） A（材） A（文）	A		引き続き多様なキャリアを有する教員の採用に努める．（教務主事） 該当なし。（機械） 対応済みのために特に予定なし。（電気） 来年度新規採用の予定無し（生化） 方針の変更無し（材料） 継続（文）
61	認	1	(3)	①	△科目担当教員(本科･専攻科)専門分野･経歴･資格管理一覧表作成																					○		各教員の基礎データとして所属学科ごとの「教員履歴表」を作成している。なお、詳細なデータは人事記録として保管している。（総務課）	A（総）	A		平成28年度に作成した「教員履歴表」を平成29年度用として更新する。（総務課）
62	Ⅰ	1	(3)	②	高専間及び技術科学大学との教員交流実施	○													○	○	○	○	○	○	○			平成29年度募集に対しては，校内の事情により応募を見送り，平成30年度以降学科順に交流をおこなうこととした．（教務主事） 昨年度、有明高専から1名を受け入れた。（機械） 教員1名が技科大との共同研究を進めている。（電気） 実施している。（制御） 本年度該当なし。（生化） 該当なし。（材料） 該当なし。（文） 他高専、大学の数学教員との共同研究、情報交換に努めた。（理）	B(教) A（機） A（電） A（制） C（生） A（材） C（文） B（理）	A	A	引き続き教員交流を行う．（教務主事） 計画なし。（機械） 引き続き該当教員が共同研究の予定。（電気） 2017～2018年度に，新居浜高専に同居支援制度による人事交流を実施予定（生化） 交流希望の教員があれば積極的に進める。（材料） 次年度も他高専、大学の数学教員との共同研究、情報交換に努める。（理）
63	Ⅰ	1	(3)	②	機構の企業内研修制度動向把握	○																						平成28年度三菱重工業株式会社「技術向上研修」に教育研究支援室の技術職員４名を派遣した．（教務主事）	A（教）	A		募集に対し参加を勧めるする．（教務主事）
64	Ⅰ	1	(3)	③	博士の学位同等（専門学科と一般理科）の教育能力を有する教員の新規採用	○													○	○	○	○	○		○			平成28年４月採用教員２名はいずれも博士（工学）を有している．（教務主事） 博士の学位者を公募採用した。（機械） 学位を考慮して選考をおこなった。（電気） 該当なし。（制御） 本年度該当なし。（生化） 博士学位取得者1名と取得予定者1名の採用が決まった。（材料）	A（教） A（機） A（電） A（材）	A	A	博士号取得者または取得見込み者の採用を行う．（教務主事） 該当なし。（機械） 引き続き採用の際には考慮する。（電気） 来年度新規採用の予定無し（生化） 方針の変更なし（材料）
65	Ⅰ	1	(3)	③	修士の学位同等（一般文科）の教育能力を有する教員の新規採用	○																		○				平成28年４月採用教員は博士（文学）を有している．（教務主事） 今年度は該当なし。（文）	A（教）	A		平成29年4月1日付採用予定なし．（教務主事）
66	Ⅰ	1	(3)	③	博士の学位同等（専門学科と一般理科）の教育能力を有する教員比率70%以上	○													○	○	○	○	○		○			機械工学科　11名全員 電気電子工学科　10名中9名 制御情報工学科　10名9名 生物応用化学科　12名中11名 材料工学科　　　9名中9名 一般理科　　　11名中9名　4/1現在定員内教員で算出（教務主事） 全員取得者である。（機械） 比率は100%である。（制御） 博士取得率（11/12）（生化） 博士の学位を持つ常勤教員100%（材料） 一般理科は、博士取得率が82%である。（理）	A（教） A（機） A（電） A（制） A（生） A（材） A（理）	A		博士号取得者または取得見込み者の採用を行う．（教務主事） 教員全員が、博士の学位を有する。（機械） 特になし（電気） 2017年度　修士の学位を有する助教が，博士の学位を取得する見込み（生化） 方針の変更なし（材料） 一般理科は、博士取得率が82%である。（理）
67	Ⅰ	1	(3)	③	修士の学位同等（一般文科）の教育能力を有する教員比率80%以上	○																		○				一般文科　修士以上　12名中11名 修士号取得者5名、博士号取得者6名であり、比率をみたしている。（文）	A（教） A（制） A（文）	A		平成29年4月1日付採用予定なし．（教務主事） 継続（文）
68	Ⅰ	1	(3)	④	教員採用において女性志願者が増加する工夫の実施	○													○	○	○	○	○	○	○			能力が同等と認められる場合は女性を優先することを公募要領に記述している．（教務主事） ポスドク女性，博士後期課程在学中の女子学生を対象とする高専教員体験インターンシップを本年度も開催する．期日は12月19日～22日の内の3日間の予定で行い，2名（電気電子工学科、生物応用化学科）の参加があった．（教務主事） 新規採用にあたり，応募資格に能力が同等と認められる場合は、女性を優先すると記載した。（機械） 既に1名女性教員がいるため、その存在自体が女性教員応募増に結びつく。公募の際にも、男女共同参画を推進している旨を明記。女性教員のためのインターンシップにも対応した。（電気） 該当なし。（制御） 女性研究者のインターンシップ実施(生化） 新規採用にあたり，応募資格に男性と同等以上であれば，女性を採用すると記載した．女性研究者のインターンシップ実施。来年度の新規採用教員にインターンシップ経験者の女性の採用が決まった。（材料） 公募書類に、女性の積極的応募を期待し、同等の力量であれば女性を採用すると明記している。（文）	A（教） A（機） A（電） A（生） A（材） A（文）	A	A	能力が同等と認められる場合は女性を優先することを公募要領に記述する．（教務主事） 引き続き，ポスドク女性，博士後期課程在学中の女子学生を対象とする高専教員体験インターンシップを実施する．（教務主事） 公募時に女性教員を優先的に採用する旨の記載を行う。（機械） 例年通り対応する。（電気） 来年度も希望があればう，女性研究者のインターンシップを受け入れる（生化） 方針の変更なし（材料） 来年度は該当なし。（文）

69	I	1	(3)	⑤	高専機構主催の教員研修、全国高専フォーラムへの教員派遣	○													○	○	○	○	○	○	○			5/16～5/17開催の新任教員研修に，本年度採用3名と，昨年度採用者のうち未受講者2名（他は昨年度受講）が参加した．（教務主事） 全国高専フォーラムへは，本校を代表校とするOS2件を開催した．本校の高専フォーラム出席者は11名である．．また，同時に開催された平成２８年度女性研究者交流会へ１名を派遣した．（教務主事） 数名の教員が参加した。（機械） 数名の教員が参加。（電気） 実施している。（制御） 平成28年度高等専門学校中堅教員研修（8月29日-31日）に萩原講師が参加した。本研修は高専の中堅層（採用後5年から10年程度）の教員を対象とし、学生指導、授業設計、組織マネジメント、研究力および教員倫理の知識と理解を深め、それら能力の向上を図ることを目的としたものであった。 平成28年度高専フォーラム（8月26日）に参加し、研究プロジェクト経費助成事業の採択研究課題について発表した。 平成２８年度インストラクショナルデザイン研修に参加した 新任教員研修に1名参加（生化） 該当なし。（材料） 新任教員研修会に2名、高等専門学校教員研修会（管理職研修）に1名出席した。（文）	A（教） A（機） A（電） A（制） A（生） D（材）	A	A	高専フォーラムへ教員を派遣し，機構本部の進める教育について理解する．Webシラバス関係ではOS等実施予定．（教務主事） 今年度と同様に実施予定。（機械） 例年通り対応する。（電気） 教員研修あれば対応する。（制御） 来年度も研修の機会を捉えて積極的に参加していく（生化） 派遣希望者がいれば積極的に進める（材料）
70	I	1	(3)	⑤	FD会議の企画運営													○										7月6日に静岡大学の益川弘如准教授をお招きし，「知識基盤社会に必要な21世紀型スキルを育むアクティブラーニング」と題して第1回FD会議を行った．11月9日に第2回を高専機構教育研究調査室長の八木雅夫氏に依頼し，~~実施巣旅程である~~「MCCを導入した高専教育の質保証」と題して講演していただいた．．第3回は学生支援室の企画で「障害者差別解消法の学内の取り組みと実践について」として多田カウンセラー，和泉教務主事，横溝准教授が講師を担当された．（授業）	A（授）	A		年3回の実施を継続する．（授業）
71	I	1	(3)	⑥	「功労賞」の募集、審査、授与、表彰の実施	○																						該当なし．（教務主事）	C（教）	C	B	功労賞に値する教員を発掘する．（教務主事）
72	I	1	(3)	⑥	機構実施の「教員顕彰制度」への推薦	○																						1名を推薦した．（教務主事）	A（教）	A		推薦を行う．（教務主事）
73	I	1	(3)	⑦	国内外研究員の派遣	○													△	△	△	△	△	△	△			平成28年度機構の在外研究員として，H28.5.27～H29.3.30予定で制御情報工学科小田教授が米国ニューヨーク市立大学に滞在中である．平成29年度は一般理科物理の谷准教授が東京大学へ内地留学の予定である．（教務主事） 該当なし。（電気） 本年度該当なし（生化） 該当なし。（材料） 該当なし。（文） 平成29年度内地研究員1名を派遣する。（理）	A（教） C（機） D（生） D（材） A（理）	A	A	内地研究員として東京大学へ谷准教授を派遣する．（教務主事） 予定なし。（機械） 現在予定はない（電気） 次年度も予定無し（生化） 派遣希望者がいれば積極的に進める（材料） 次年度、谷太郎准教授を内地研究員として派遣する。（理）
74	I	1	(3)	⑦	教員の国際学会での発表促進	○													○	○	○	○	○	○	○			４２歳以下の若手教員を対象とする教育助成金制度により，3名の教員が海外での国際会議で発表した．（教務主事）教育研究助成による補助を若手教員に行った．（教務主事） 発表を促進している。（機械） 既に3名が発表。うち1名は招待講演、1名は機構共催のISATE2016。（電気） 実施している。（制御） 平成２７年６月にストラスブール市（フランス）で開催された第１０回大環状超分子化学国際会議に、石井教授が参加すると共に、研究成果を発表した。（生化） 2名の発表実績（韓国、チェコ、フランス）。（材料） 1件あり。（文）	A（教） A（機） A（電） A（制） A（生） A（材） B（文）	A		４２歳以下の若手教員を対象とする教育助成金制度を利用してもらう．（教務主事） 積極的な参加を促す。（機械） 国際会議発表を奨励する。（電気） 引続き教員各自において実施する。（制御） 次年度も発表を促進する（生化） 発表希望者がいれば積極的に進める（材料） 継続（文）
75	I	1	(3)	⑧	教員採用・昇格に関する基準・規定の適正運用	○													○	○	○	○	○	○	○			採用については募集要項確認，調査委員の選定，選考まで規則に従って人事連絡委員会で審議・承認している．また、校長より校長裁定として昇任基準が示され，これにそった昇任審査を行っている．（教務主事） 適正に行っている。（機械） 適正に運用している。（電気） 運用を適切に行っている。（制御） 昇任についての校長裁定を基準に萩原助教が講師に昇任した（生化） 適正運用を行っている。（材料） 基準・規定を適正に運用し、今年度２名が昇任した。（文） 運用を適切に行った。（理）	A（教） A（機） A（電） A（制） A（生） A（材） A（文） A（理）	A	B	規則に従い人事連絡委員会で審議・承認を行う．（教務主事） 今年度と同様に実施予定。（機械） 例年通り対応する。（電気） 次年度も，教員昇格に関する基準・規定に達している教員を，推薦していく（生化） 方針の変更なし（材料） 継続（文） 次年度も運用を適切に行う（理）
76	I	1	(3)	⑧	紀要の教授・准教授昇任要件における査読付き論文に準ずる扱いの検討 （第9回人事連絡委員会）	○			○																			結論はだせていない．（教務主事）	C（教）	C		引き続き検討する．（教務主事）
			(4)教育の質の向上・改善																													
77	I	1	(4)	①	モデルコアカリキュラムへの対応	△											○		△	△	△	△	△	△	△			8/24～26開催の平成28年度全国高専フォーラムに人員を派遣し、「モデルコアカリキュラムの改訂と教育の質保証について」、「Webシラバスの使用方法とルーブリック作成の相談室」、等のオーガナイズドセッションに参加して最新動向を調査した。モデルコアカリキュラムと連携している「Webシラバス」については、来年度運用を目指し、今年度は試行を行った。来年度運用のために、年度内に来年度のWebシラバス作成を依頼した。（教育部会） モデルコアカリキュラムに定めてある事項を網羅したシラバスにしたがって、授業を行った。（機械） 学科会議でウェブシラバス入力を依頼した。（電気） 記入済み（生化） Webシラバスを試用。高専間の教材共有プロジェクト、CBTプロジェクトへの参加(材料) 対応している。（文） 各教員が授業を通して、学生の状況に合わせて対応した。（理）	B（教） A（機） C（電） A（生） A（材） B（文） B（理）	A	A	30年度の新モデルコアカリキュラム対応を目指し、次年度はWebシラバスに記入された集計結果をもとにモデルコアカリキュラムとの整合性のチェック及び改善等を進めていく予定である。（教育部会） 今年度と同様に実施予定。（機械） 機構の方針に依存するため、ウェブシラバス以外は対応未定。（電気） 次年度も指示に従って実施（生化） 方針の変更なし（材料） 継続（文） 次年度も授業を通して、学生の状況に合わせて対応する。（理）
78	I	1	(4)	①	Webシラバスの取りまとめ校としての対応	○																						平成28年6月より本格的に開始し，7月に全高専へ久留米が拠点校となったことの通知と進捗状況の調査を依頼した．また，7月よりWebシラバス専任の事務補佐員を雇用して，機構本部教育研究調査室との連絡や資料作成等を行ってもらっている．また，常勤では教務係長と教務係員１名が各高専への連絡や利用者向けマニュアルの作成，各高専からの質問対応，システム開発会社との調整、及びWebシラバス専用HPの運営にあたっている．全高専への普及活動として，8月の岡山での高専フォーラムにて教育研究調査室との共同企画でオーガナイズドセッションを開催し、11月には徳山高専、3月には沖縄高専、香川高専で説明会を実施及び実施予定である。（教務主事）	A（教）	A		平成29年度も引き続き機構本部教育研究調査室との連絡、資料作成等、利用者向けマニュアルの作成，各高専からの質問対応，システム開発会社との調整及びWebシラバス専用HPの運営にあたっていく予定。全高専への普及活動として、8月の長岡での高専フォーラムにて説明会を実施予定（教務主事）
79	I	1	(4)	①	ICT活用教育取組み)実情把握及び導入検討	○													△	△	△	△	△	△	△			教務主事が機構本部のICT活用教育部門の部門員であることを利用し，情報収集を行っている．（教務主事） CAD演習、機械要素設計実験、機械工学実験（FEMによる弾性解析）などで、ICT活用教育に対しては十分に取組みを行っている。（機械） 学科として取り組んでいるものはない。（電気） 未対応（生化） 情報処理の授業において推進。高専間の教材共有プロジェクト、CBTプロジェクトへの参加（材料） 英語ではネットアカデミーによるe-learningを授業中、授業外で活用している。（文） 各教員が授業を通して、学生の状況に合わせて対応した。（理）	B（教） A（機） D（生） A（材） A（文） B（理）	A		Webシラバス担当校であることを利用して情報収集を行う予定（教務主事） 今年度と同様に実施予定。（機械） 現時点で特に予定はない（電気） 平成２８年度インストラクショナルデザイン研修参加をふまえて，次年度に対応していく（生化） 方針の変更なし（材料） 継続（文） 次年度も授業を通して、学生の状況に合わせて対応する。（理）
80	I	1	(4)	①	教材共有化の他高専の取り組み状況把握	○													△	△	△	△	△	△	△			教務主事が機構本部のICT活用教育部門の部門員であることを利用し，情報収集を行っている．e-lerningとする場合の教材は独自作成のものでないと現状では著作権を侵害することになる．（教務主事） 各教員で問題を共有化し、状況等整理した。（機械） 特に行っていない。（電気） 未対応（生化） 高専間の教材共有プロジェクト、CBTプロジェクトへの参加（材料） 該当なし。（文） 各教員同士で相談、情報共有などを行った。（理）	B（教） A（機） D（生） A（材） C（文） A（理）	A		Webシラバス担当校であることを利用して情報収集を行う予定．（教務主事） 今年度と同様に実施予定。（機械） 現時点で特に予定はない（電気） 次年度も予定無し（生化） 方針の変更なし（材料） 次年度も各教員同士で相談、情報共有などを行う。（理）
81	I	1	(4)	①	機構主催アクティブラーニング研修、ルーブリック評価研修等への参加	○																						高専フォーラムのオーガナイズドセッションに参加した。（教務主事）	B（教）	A		平成29年度シラバスのルーブリックを点検する．（教務主事）

82	Ⅰ	1	(4)	①	アクティブラーニングを導入した授業の検討														○	○	○	○	○	○	○			エネルギー変換工学等ではすでに導入している。(機械) 特に行っていないが、卒業研究・専攻科研究論文(含む基礎)もある程度当てはまると考える。また、従来からの学生実験である4年の機器実験において実験留意事項引き継ぎシートや学生間相互評価システムを導入し、アクティブラーニング的・PBL的視点を付加する取り組みを行った。(電気) 該当なし。(制御) Webシラバスを試用。(材料) 全ての教科で授業にアクティブ・ラーニングを取り入れ、学生の主体的な学習を促進している。(文) 一方的な講義にならないよう、学生が主体的に参加できる授業を工夫した。(理)	A(機) A(電) B(生) A(材) A(文) B(理)			今年度と同様に実施予定。(機械) 既に実施している科目について改善を図る。(電気) 平成28年度インストラクショナルデザイン研修参加をふまえて，次年度に対応していく(生化) 方針の変更なし(材料) 継続(文) 次年度も学生が主体的に参加できる授業を工夫し実施する。(理)
83	Ⅰ	1	(4)	①	ルーブリック等による学生の到達目標を設定した授業の検討														○	○	○	○	○	○	○			検討中。(機械) ウェブシラバス対応予定。(電気) シラバスの設定においては検討している。(制御) MMC活用予定(生化) Webシラバスを試用。(材料) 検討中である。(文) 教科研修会に中で、到達目標を設定した授業を検討している。(理)	C(機) C(電) A(制) D(生) A(材) B(文) B(理)			今年度と同様に検討予定。(機械) ウェブシラバス導入で実施されるため、それ以上の対応はない。(電気) MCCの展開に合わせて，実施していく(生化) 方針の変更なし(材料) Webシラバス入力を進め、検討していく。到達目標に対するルーブリックを適宜適正化し、その結果を用いて引き続き授業改善に努める。(理)
84	Ⅰ	1	(4)	①	高専学生情報統合システムの機構整備状況の動向把握	○																						教務主事が機構本部のICT活用教育部門の部門員であることを利用し，情報収集を行っている．(教務主事)	B(教)	A		Webシラバス担当校であることを利用して情報収集を行う予定(教務主事)
85	Ⅰ	1	(4)	②	学位認定者のJABEEプログラム修了認定及び認定の通知				○										○	○	○	○	○					修了証書伝達の際交付できるよう各プログラムでの修了確認をJABEE委員会で検討した。平成28年度修了生から実施(予定)。(専攻科主事) 27年度6名を認定(機械)。 例年通り、JABEE委員会を経て行った。(電気) 実施した。(制御) H27年度6名の修了認定を行い通知した。(生化) 平成27年度専攻科卒業生5名に対してJABEEプログラム修了認定の通知を行った。(材料)	B(専) A(機) A(電) A(制) A(生) A(材)	A	A	今年度と同様に実施予定。(機械) 例年通り対応予定。(電気) 次年度も同様に実施する。(制御) 次年度も，専攻科修了生に対して認定を通知していく(生化) 方針の変更なし(材料)
86	Ⅰ	1	(4)	②	JABEEプログラム学習・教育目標及びそれを達成するために必要な授業科目の流れ図の点検並びに公開				○										○	○	○	○	○					チェックリスト未作成。後期に作成する。(専攻科主事) シラバスに公開している。(機械) 昨年度の継続審査の際に実施済み。(電気) 実施した。(制御) URLを改訂し，公開中。(生化) シラバスに掲載、学科内に4カ所掲示。4年生進級時・専攻科入学時に説明し公開している。(材料)	A(機) A(電) A(制) A(生) A(材)	A		今年度と同様に実施予定。(機械) 対応済み(電気) 次年度も同様に実施する。(制御) 次年度，専攻科のURL改訂に伴い拡充していく(生化) 公開の継続(材料)
87	外	1	(4)	②	JABEE継続・非継続の検討				○										△	△	△	△	△					JABEEへの照会、JABEE委員会でメリットやデメリットの検討継続中。(専攻科主事) JABEE委員会で行っている。(電気) 継続，非継続にかかわらず，教育の質保証の取り組みは継続。(生化) JABEE委員会にあわせて学科内で検討。(材料)	B(専) A(機) B(電) A(生) A(材)	A		引き続き検討していく。(機械) 学校として決めるべきもの(電気) JABEE認定満了にともない5年後に決断(生化) 検討の継続(材料)
88	Ⅰ	1	(4)	②	資格試験や検定試験の受講に対する支援														○	○	○	○	○	○	○			専攻科入試でのTOEC導入に伴い後援会からの受験費用補助を得て受験者が増えた。1月に外国人講師によるセミナを時間外に企画、実施した。(専攻科主事) ・日本機械学会の計算力学技術者認定の公認講習会になっている機械工学実験(FEMによる弾性解析)を前期に実施した。同科目の単位取得者は、日本機械学会への申請により、計算力学技術者初級に認定されるとともに、同2級の講習会受講が免除される。また、CAD技能検定(CSWA)の勉強会を7/28(木)に、試験を7/29(金)に実施した。(機械) 自習室に自学自習用の教材(英語、工事士等)を配置し、英検と電気主任技術者については、取得者には編入学試験の推薦を優先的に与える等の措置を取っている。(電気) 該当なし。(制御) QC検定と危険物甲種の受験を奨励し，危険物甲種で，4人(4年生)と9人(5年生)の合格者(生化) 2，3年学生の機械加工(普通旋盤作業)二級機械加工技能士合格(材料) ・英語科では、英検やTOEICに対する授業支援を行っている。(文) 数学検定の本を用意して、希望者に対応できるようにした。(理)	A(専) A(機) A(電) A(生) A(材) A(文) B(理)	A		今年度と同様に実施予定。(機械) 従来通りの対応。学生への周知を徹底する。(電気) 次年度も受験奨励していく(生化) 支援を続ける(材料) 継続(文) 意欲的な学生に数学検定を勧め、指導する。次年度も、学生個別に相談に対応する。(理)
89	Ⅰ	1	(4)	③	専攻科サマーレクチャーの実施検討				○										△	△	△	△	△					平成29年度は電気電子工学コース主催で開催する。(専攻科主事) 29年度実施を決定した。(電気) 今年度該当なし。(生化) 該当なし。(材料)	A(専) A(電) D(生)	A	A	29年度実施予定(電気) 次年度も予定無し(生化) 該当なし(材料)
90	Ⅰ	1	(4)	④	創造性を育む教育方法の工夫	○			○										○	○	○	○	○	○	○			平成28年12月22日の外部評価委員会で池田教授が各学科の取り組みについて報告した．(教務主事) 前期には未検討。後期に検討する。(専攻科主事) 5年の機械要素設計実験で、ウインチ、風車などを自由度をもたせて設計、試作させている。(機械) 電気電子実践演習で低学年、高学年では卒業研究、専攻科研究論文等において、各種コンテスト等への参加を促すなどの工夫を行っている。(電気) 各教員において実施している。(制御) テーマ企画から実験遂行。報告書作成までを行う創造工学実験を実施(専攻科生化) 専攻科1年生での創造工学実験の実施(材料) 全ての科目で工夫している。(文) 意欲的な学生に対して、科学研究を呼びかけ、指導し、科学コンクールに参加している。(理)	A(教) A(機) A(電) A(制) A(生) A(材) A(文) A(理)	A	A	本校では様々な取り組みがされているので，池田教授の平成28年度外部評価委員会でのご報告のようにまとめておくとよいと考える．(教務主事) 今年度と同様に実施予定。(機械) 対応済み(電気) 次年度も同様に実施する。(制御) 次年度も創造工学実験を実施予定(生化) 創造工学実験の推進(材料) 継続(文) 次年度も意欲的な学生に対して、科学研究を呼びかけ、指導し、研究成果を発表させる。通常の授業や卒業研究などを通じて、進めていく。(理)
91	Ⅰ	1	(4)	④	各学科の教育に関する特色ある取組みの促進														○	○	○	○	○	○	○			CAD/CAM/CAEに加えて、CAD/CAM/CAEにより設計、製作したものの実証実験までを行っており、それによる技術者としての実務能力向上をめざすことを特色とする機械要素設計実験の前期分を実施した。(機械) 英語教育に力を入れており、中学生に対する学校説明の際にも強調している。28年度は外国人教員採用でより充実した指導を行った。(電気) マイクロソフトによるAPI開発を共同講義として実施した。新カリキュラム(H29年度より実施)において、情報系科目の充実の他、特色ある科目として「創造プログラミング演習」を導入している。(制御) 1～5年まで継続する学生実験のレポート指導を充実させると共に，グループで機械を動かす4年物化化工実験では，役割制を導入しチームワーク力の育成をめざしている(JABEEの評価はA)。(生化) 創造工学実験での中学生向けの演示実験装置の開発を継続実施中(材料) 国語科では、国語Ⅰでグループごとに朗読劇の発表会を実践し、内容解釈とその表現に自発的な意欲が生じるよう努め、国語Ⅱでも現代文について、グループごとの演習発表を試み、担当グループの発表後には教室内でディスカッションし、挙げられた問題提起について意見を出し合い、それによってさまざまな解釈を広げることを目指した。また、2年生全学科に実施している「世界史」の授業において、教科書を批判的に検討し、教科書の修正文を提示するレポートを課している。そのレポートを作成する方法に関する授業において、レポートを作成する最初のステップである教科書の中で批判的に検討する対象となる文章を探す作業を行い、その後、4人くらいのグループを作り、発表し合うというグループ学習を行っている。 (文) 各教員が授業を通して、学生が単に数式や文言の丸暗記するのではなく式や法則の成り立ちや理論的背景を理解するように、また、学生の論理的思考力を育てるように工夫を重ねた。(理)	A(機) A(電) A(制) B(生) A(材) A(文) A(理)	A		今年度と同様に実施予定。(機械) 外国人教員・補助員採用を検討する。(電気) 新カリキュラム編成・実施に伴い特色ある取り組みを促進する。(制御) 次年度も継続して実施(生化) 創造工学実験の推進(材料) 継続(文) 次年度も各教員が授業を通して、数学の知識と論理的思考力を育てる取り組みを続ける。(理)
92	Ⅰ	1	(4)	④	教育活動の実態を示すデータや資料の収集・蓄積	○			○										△	△	△	△	△	△	△			成績評価の根拠とした答案，レポートの10年保管を要請した．(教務主事) 各プログラムでのJABEE関連資料と別に、後期に専攻科保管の資料整理予定。(専攻科主事) 各種データおよびファイルを学科のサーバーに随時アップしている。(機械) 学科ファイルサーバーにデータ保存を行っている。(電気) 学科サーバーを構築し，教育活動の全データを蓄積。(生化) 学科内サーバーを利用し、データや資料の収集・蓄積を行っている(材料) 英語では1年次と3年次に外部評価テストを実施し、教育活動の成果を示すデータを収集・蓄積し、教育に生かしている。(文) 1年生数学の定期試験問題の検討と記録を継続して行った。(理)	A(教) A(機) A(電) C(生) A(材) A(文) A(理)	A		本校では様々な取り組みがされているので，対外アピールのためまめておくとよいと考える．(教務主事) 今年度と同様に実施予定。(機械) 対応済み(電気) 学科サーバーがダウンしたが，予算不足によりサーバーの再構築ができないため，資料の収集は，紙媒体ベースに戻す(生化) KOSEN4.0イニシアティブを活用して交流を進める(材料) 継続(文) 次年度も1年生数学の定期試験問題の検討と記録を継続して行う。(理)

93	Ⅰ	1	(4)	④	全国高専の教育方法の試み、効果的な取組事例調査及び全教員への周知	○			○	○									△	△	△	△	△	△	△			教務主事が機構本部のICT活用教育部門の部門員であることを利用し，情報収集を行っている．また，２月にはALの推進校である仙台高専の担当教員が来校し，”やじカフェ”を開催した．（教務主事） 前期は活動なし。高専フォーラムへの参加。（専攻科主事） 全国高専フォーラムにて2件のオーガナイズド・セッションを実施し，本校からフォーラムに教員10名，事務職員3名が参加した．（企画主事） 全国高専フォーラムに教員1名が参加し、全国の特徴的取り組みの調査や意見交換を行った。（電気） 学会、高専シンポジウムなどを通じて他高専との情報共有を進めている。（生化） 学会、高専シンポジウムなどを通じて他高専との情報共有を進めている。（材料） 英語に関しては、九州・沖縄地区の英語弁論大会実施の際に英語教員で教育方法等について情報交換会を行い、後日英語教員で情報を共有している。（文） 研修会で情報交換を行っている。（理）	A（教） A（企） A（機） A（電） B（生） A（材） A（文） A（理）	A		Webシラバス担当校であることを利用して情報収集を行う予定（教務主事） 本年度に引き続き、全国高専フォーラムに積極的に参加し、教育方法の質の向上や教育方法の開発推進に取り組んで行く。（企画主事） 今年度と同様に実施予定。（機械） 特に予定はない（電気） 次年度も継続して実施（生化） KOSEN4.0イニシアティブを活用して交流を進める（材料） 継続（文） 今後も科内の研修会で情報交換を行う。（理）
94	Ⅰ	1	(4)	④	異なる学科出身者が共同で取組む内容の創造工学実験への導入検討 （第4回学科長委員会）				○										△	△	△	△	△					後期の次年度シラバスに、可能なものから反映する検討を進める。（専攻科主事） 専攻科と関連コースを含めた話し合いの場を待っている。（電気） 未検討（生化）	C（電） D（生） D（材）	C		専攻科の対応待ち。（電気） 次年度も検討予定無し（生化） 創造工学実験での導入を検討する（材料）
95	Ⅰ	1	(4)	⑤	本科４年インターンシップの実施														○	○	○	○	○					夏季休暇に42名がインターンシップに参加した。（機械） 30名が実施し、9月23日に報告会を実施予定。（電気） 実施した。（制御） 4C全員がインターンシップに参加し、報告会を行った。（生化） 4Mの学生がインターンシップに参加した（材料）	A（機） A（電） A（制） A（生） A（材）	A	A	今年度と同様に実施予定。（機械） 例年通り対応予定。（電気） 毎年全員がインターンシップに参加していることを，次年度以降も継続する（生化） 方針の変更なし（材料）
96	Ⅰ	1	(4)	⑤	専攻科インターンシップの実施				○																			1年生が夏季休暇中に実施、9月に報告会を開催した。（専攻科主事）	A（専）	A		
97	Ⅰ	1	(4)	⑤	九州大学大学院総合理工学府と連携した専攻科インターンシップの実施				○																			~~包括的な協定の案の策定中。~~インターンシップ継続実施（専攻科主事）	A（専）	A		
98	外	1	(4)	⑤	大学、大学院との連携強化の方策検討	△			○																			協定校である北陸先端科学技術大学院大学(JAIST)のキャンパス公開へ参加した。（専攻科主事） 包括的な協定の案の検討中。タイ、キングモンクットとのMOA協定をH28年度中に締結（専攻科主事）	A（専）	A		
99	Ⅰ	1	(4)	⑥	高専機構の企業技術者等活用プログラム実施検討								○															専攻科1年の産業デザイン演習並びに産業財産権特論において、日本弁理士会・地域企業技術者・地域公設試験研究機関等の参加を得て実践的な教育を推進した（産学民）。	B(産）	A	A	予定なし（産学民）
100	Ⅰ	1	(4)	⑦	地域の高等教育機関との単位互換制度実施	○			△				△															高等教育コンソーシアム久留米（久留米大学・久留米工業大・聖マリア学院大学・久留米信愛女子短期大学）を組織して単位互換協定を結んでいる．（教務主事） 後期開催の共同講義に本校から講師2名参加、また聴講学生として専攻科生参加。(専攻科） 高等教育コンソーシアム久留米を介して単位互換協定校（久留米大学・久留米工業大学・聖マリア学院大学・久留米信愛女子短期大学）との単位互換共同講義（10月4日～11月26日：全15回）のカリキュラムを実施した（産学民）。	A（教） A（専） A（産）	A	A	高等教育コンソーシアム久留米（久留米大学・久留米工業大・聖マリア学院大学・久留米信愛女子短期大学）で単位互換共同講義のカリキュラムを実施する（教務主事） 高等教育コンソーシアム久留米を介して単位互換協定校（久留米大学・久留米工業大学・聖マリア学院大学・久留米信愛女子短期大学）との単位互換共同講義を実施するとともに、市民公開講座等をカリキュラムに繰り込む等単位互換制度を推進する（産学民）。
101	Ⅰ	1	(4)	⑦	技術科学大学等の理工系大学との研修会参加等による教員交流実施	○													△	△	△	△	△	△	△			1名の教員が豊橋技科大と実施。（電気） 笈木教員　研究交流集会の参加(数年に一度）、福田研究室との共同研究、実験実習のための学生派遣などを行っている。（生化） 技科大との三機関連携への参加（材料）	A（教） A（電） A（生） A（材）	A		引き続き推進する．（教務主事） 継続する（電気） 次年度も継続（生化） 継続して連携を行う（材料）
102	Ⅰ	1	(4)	⑧	教育用電子計算機システムの活用							○							○	○	○	○	○	○	○			現システムの安定運用に継続的に努めた。平成29年度導入予定新システムのための仕様を決定した。平成29年度における新しい教育用電子計算機システム運用に向け、購入された機器の立ち上げを行った。（総合） CAD演習、機械要素設計実験などCAD/CAEを用いる授業をIT演習室で行っており、教師用の授業支援システムなども有効に利用している。（機械） 英語の早朝講義においてL教室を利用。複数の科目においてL教室利用。電気電子CADにおいても、CADの際に利用。（電気） 実施している。（制御） 情報処理以外にも，実験のデータ処理以外にも生物学，産業財産権で活用（生化） 情報処理、材料工学設計製図の授業で実施中（材料） 英語科では高学年の授業でLL教室を大いに活用している。（文）	A(総） A（機） A（電） A（制） A（生） A（材） A（文）	A	A	新規導入された教育用電子計算機システムの安定運用に努める。（総合） 今年度と同様に実施予定。（機械） 対応を継続する（電気） 次年度も同様に活用する予定。（制御） 次年度以降も，授業で活用していく（生化） 方針の変更なし（材料） 継続（文）
103	Ⅰ	1	(4)	⑧	コンピュータ支援語学学習(CALL)システムの活用																			○				校内のPCからアクセスできるe-learmomg環境が整い、全学年に紹介し活用を促進している。（文）	A（文）	A		継続（文）
104	Ⅰ	1	(4)	⑨	一般科と専門学科の連携強化													○	○	○	○	○	○	○	○			授業改善専門部会では実施していない．(授業） 学科会議等で学生の状況等、連携を行っている。（機械） 応用物理Ⅱの担当内容について確認を行った。（電気） 年度末に学生の現状における意見交換を実施している。（制御） 一般理科化学系と連携し，４年応用化学実験，卒業研究を実施。（生化） 前期及び後期成績発表後，さらに進級査定会議前などに学級担任懇談会を実施　卒業研究への一般科目（理科）教員の参加(材料) 該当なし。（文） 各教員で個別に専門学科の教員と情報交換したり、卒業研究に協力するなど連携をした。(理）	B（授） A（機） A（電） A（制） A（生） A（材） B（理）	A	A	部会として全学にわたる連携方法を検討する．（授） 今年度と同様に実施予定。（機械） 数学・物理について、引き続き連携を行う。（電気） 次年度以降も連携していく。（生化） 方針の変更なし（材料） 次年度も、各教員で個別に専門学科の教員と情報交換したり、卒業研究に協力するなど連携をする。（理）
105	Ⅰ	1	(4)	⑨	学科内科目間連携														○	○	○	○	○	○	○			機械工学の主要分野である材料力学、流体力学、熱工学、機械力学に関して、CAD/CAE/CAMおよび実験により授業を行う機械要素設計実験において、各分野の教員が連携して授業を行っている。（機械） 電気回路Ⅲ担当と積分変換科目担当で教授内容の順序等について調整を行った。（電気） 学科内科目間の整合性の確認・連携を行っている。（制御） 生物応用化学入門と化学技術史を生物応用化学科教員オムニバスで実施。（生化） 授業改善会議を実施し，科目間の進捗状況の共有と情報交換を実施。（生化） 教室会議などにおいて教育改善会議を随時実施（材料） 該当なし。（文） 各教員で機会を設けて、個別に情報交換したり協力して指導に当たるなど連携をした。試験ごとに数学教員で授業や試験問題の分析、検討を行う研修会を実施し、指導に反映した。(理）	A（機） A（電） A（制） A（生） A（材） C（文） A（理）	A		今年度と同様に実施予定。（機械） 必要に応じて対応する（電気） 次年度も同様に実施する。（制御） 次年度以降も連携していく。（生化） 方針の変更なし（材料） 試験ごとに行っている数学教員の研修会、勉強会を継続、指導に反映させる。各教員で個別に学科内の他の教員と情報交換をし、授業・指導に反映をする。(理）
106	Ⅰ	1	(4)	⑨	専門学科間の連携														○	○	○	○	○					研究において、各学科が管理する研究設備を相互に利用している。また各学科の教員の専門知識について、相互に質問するなどしている。（機械） 相互担当を機械、材料と行っている。（電気） 専攻科の創造工学実験などにおいて学科間の連携を行っている。（制御） 機械工学科と連携し，図学と機械工学概論，化学工学の授業に相互に教員を派遣（生化） 図学を機械工学科，電気電子工学概論を電子電気工学科、情報処理Ⅰを制御情報工学科にお願いし，機械材料学(機械工学科），材料学（制御情報工学科），電子電気材料学(電気電子工学科）の授業を担当している．（材料）	A（機） A（電） A（制） A（生） A（材）	A		今年度と同様に実施予定。（機械） 例年通り対応（電気） 次年度も同様に実施する。（制御） 次年度以降も連携していく。（生化） 方針の変更なし（材料）
107	Ⅰ	1	(4)	⑩	セメスター制導入検討の必要性検討	○	△		△																			第5ブロック（九州地区）高専の校時統一にあわせて，第5ブロックのセメスター制導入状況（本校を除く8校9キャンパスで平成29年度よりセメスター制実施）を7月の学科長委員会で報告した．（教務主事）	B（教）	A	A	平成30年度からのセメスター制実施を検討する（教務主事）
108	外	1	(4)	⑩	グローバル人材教育の達成目標と評価方法の導入検討	○			○																			グローバル人材の定義から検討中．（教務主事） 前期未検討。後期に検討する。（専攻科主事）（検討）	B（教） C（専）	B		グローバル人材の定義から検討する．（教務主事）
109	外	1	(4)	⑩	英語力の達成目標の導入検討	○			△										△	△	△	△	△	△				専攻科入試にTOEIC採用した。専攻科研究論文の発表会予稿に英文アブストラクト記載を必須とした。募集要項のTOEICスコアの換算係数と関連して検討。（専攻科主事） 特に目標は設定していないが、英検と電気主任技術者については、取得者には編入学試験の推薦を優先的に与える等の措置を取っている。（電気） 未検討。（生化） 学科名称変更にあわせて達成目標を策定した。（材料） モデルコアカリキュラムに準じている。（文）	C（専） B（電） D（生） A（材） B（文）	A		特に予定はない。（電気） 次年度も予定無し。（生化） 目標達成のために努力する（材料） 継続（文）

110	外	1	(4)	⑩	留年・休学・退学者の減少対策検討	○																						4月に機構からアンケート調査があり，学科長と一般科目教員に本校独自項目によるアンケートを実施し，機構へ回答するとともに，6月の学科長委員会へ報告した．(教務主事) その後12月末締切で機構から，留年と退学の目標数値と具体策の調査があり，次期教務主事とも相談し提出した．(教務主事)，	A(教)	A		レベル維持との間で難しい課題である．(教務主事)
111	Ⅰ	1	(4)	⑩	研究活動に基づく教育の質の改善														○	○	○	○	○	○	○			日本機械学会年次大会、日本機械学会歯車分科会、日本設計工学会講演会などに参加し、伝動装置における最新の情報を入手し、機構学、機械設計法、製図、生産加工学、機械工学実験などの授業に取り入れ、教育の質の改善を図った。(機械) 卒業研究・専攻科研究論文で行われている。教員の学会参加・発表を奨励している。(電気) 各教員において、研究活動の内容を専攻科研究論文や卒業研究論文の教育に反映している。(制御) 学会発表，論文発表などを通して継続的に改善中で，独立行政法人国立高等専門学校機構の平成27年度研究プロジェクト経費に採択 され、卒業研究テーマについて、他高専の教員との交流を実施しています。(生化) 最新の研究内容について授業のなかで反映させている(材料) 其々の教員が研究活動の成果を授業に生かし、教育の質を向上させている。(文) 各教員で機会を設けて、個別に情報交換したり協力して指導に当たるなど連携をした。試験ごとに数学教員で授業や試験問題の分析、検討を行う研修会を実施し、指導に反映した。(理)	A(機) A(電) A(制) A(生) A(材) A(文) A(理)	A		今年度と同様に実施予定。(機械) 例年通り対応(電気) 次年度以降も継続。(生化) 方針の変更なし(材料) 継続(文) 数学科での情報交換会、研修会を継続して実施する。次年度も研究内容を講義に取り入れ、教育の質の改善に取り組む。(理)
112	Ⅰ	1	(4)	⑩	FD会議に基づく教育の質向上や授業の改善													○										FD会議を予定通り実施し，アンケートの考察を行った．平成28年度アクティブラーニングトレーナ研修会に黒木教授と菰田准教授が参加した．(授業)	A(授)	A		学内のFD会議および機構主催の関連研修会に出席する．(授業)
113	Ⅰ	1	(4)	⑩	教員による授業参観方法見直し検討	△												○									△	担当教員の了承を必要とせず，担当教員に事前に連絡することで実施することを授業改善専門部会として自己評価検討委員会に提案することとなった．(授業)	B(授)	B		授業参観の件数が少ないため，増加させるための対策を検討する．(授業)
114	Ⅰ	1	(4)	⑩	教育支援者等の研修等への参加及びSD会議の開催										○													西日本地域高等専門学校技術職員特別研修会に1名が参加した。 グローバルSD(マレーシア・ペナン研修)に1名が参加した。 九州地区国立大学法人等技術職員スキルアップ研修Aに1名が参加した。(教務主事)		A		
115	Ⅰ	1	(4)	⑩	コミュニケーション能力を高める取り組みの推進														○	○	○	○	○	○	○			機械要素設計実験において、1クラスを5グループに分け、グループ内での討議内容を提出させ、成績評価の対象としている。(機械) 卒業研究では中間発表と研究論文発表を行う予定。専攻科では、インターンシップ報告会、専攻科研究論文発表が予定されている。(電気) 卒研や専攻科研究論文などでは学生の間のコミュニケーション能力の改善を図っている。(制御) 情報化学(2，3年)の授業でパワーポイントを使った発表をさせた。(生化) 創造工学実験，卒業研究インターンシップ(4年，専攻科)など主だった実験科目については，パワーポイントを使用した発表会を実施．(材料) 国語科では1年生で朗読劇の発表会を行い、教室内の黒板や机・椅子の活用などで工夫を凝らした演出を競い合わせ、内容解釈とその表現に自発的な意欲が生じるよう工夫している。2年生ではグループごとの演習発表を行い問題提起とそれに対する自分達の討論結果を含んだプレゼンテーションを課している。また世界史の授業では、教科書を批判的に読み、グループ内で発表させている。発表し合う環境設定としては、机を端に寄せ、円形に配置した椅子に教科書を持った学生が座って向かい合い隣り合うようにすることにより、コミュニケーションを活発にしている。(文) 筋道立てて考え、それを表現する答案の書き方を指導している。レポートを受け取る際にその答案を学生自身に説明させるなど、自分の意見や考えを自分の言葉で話す機会を作った。(理)	A(機) A(電) A(制) B(生) A(材) A(文) A(理)	A		今年度と同様に実施予定。(機械) 例年通りに対応(電気) 次年度以降新たに取り組むことは無いが，卒業研究，専攻科研究などのOJTにより，コミュニケーション能力の向上に注力していく。(生化) 方針の変更なし(材料) 継続(文) 授業の色々な場面でコミュニケーション能力を高める工夫を続ける。(理)
116	Ⅰ	1	(4)	⑩	英語力・国際コミュニケーション能力を高める取り組みの推進														○	○	○	○	○	○	○			専攻科では外国人講師による時間外の短期セミナーを企画し学生に参加を呼びかけている。また九州沖縄の高専連携による企画に学生参加、国際会議での研究発表など専攻科研究論文指導教員も積極的に実際の場でのコミュニケーション実践を推奨している。(専攻科主事) 後期に、5年生選択科目「テクニカルコミュニケーション」を開講する。(機械) 各学年において英単語の小テストを行っている。タイからの留学生が1名1研究室に配属された。希望者には、1時限目の前に英語の早朝講義を行っている。28年度は外国人教員採用でより充実した英語の指導を実践演習等で行った。(電気) 外国から学生を受け入れ、学生間の英語による交流を行っていた。(制御) タイ，シンガポールからの留学生を受け入れ，学生実験、卒研、HRに参加しても らい本科，専攻科学生を英語によるコミュニケーションをさせた。技術英語では，英語によるプレゼンテーションを実施した。生物応用化学科棟内にタブレットを配置し，ネットアカデミーの活用を推奨している。(生化) 4年後期に行う工業英語を少人数クラスで実施する。外国人(短期)留学生との交流により国際コミュニケーション能力の向上を図った(材料) 英語科では、2年次で外国人教員による授業を組み込み、英語曲・国際コミュニケーション能力を高める取り組みをしている他、九州・沖縄地区の英語弁論大会への出場を奨励し、出場学生を指導している。また、3年次に図書館にある多読用図書のCD付きのものを1冊借りて、150～200語程度の部分を音読する、という課題を出している。CDを聞いて、英語の発音やイントネーションを練習することを目的として、どの本のどの部分を読むかは各自に自分のレベルを考慮して決めさせている。さらに5年生では、英語のライティングや論述法をテーマにした教科書を使い、文章の構成等を学んだあとで、各レッスンのテーマに沿った短い作文を課題にしている。大まかな作文のテーマは与えられているが、各自が自分の体験等に基づいて内容を考え、学習した文章構成を使ってライティングを行っている。(文)	B(専) A(機) A(電) A(制) A(生) A(材) A(文)	A		今年度と同様に実施予定。(機械) 引き続き推進する(電気) 次年度も短期間外国人学生を受け入れる場合、実施する。(制御) 次年度も継続。(生化) 方針の変更なし(材料) 継続(文)
117	Ⅰ	1	(4)	⑩	担任・クラブ顧問の手引き作成検討	○	○																					業務が多岐にわたるので結論が出ない。検討を継続する。(学生主事)	C(学)	C		引き続き検討予定。(学生主事)
118	Ⅰ	1	(4)	⑪	4年生工場見学旅行及び低学年工場見学の実施														○	○	○	○	○					4年生の工場見学は、9/26～9/30に実施する。(機械) 関東方面に9月26日から実施予定。(電気) 実施した。(制御) 4年工場見学では先輩社員との懇談を企画し，各学年1回以上近隣企業の工場見学を実施。(生化) 1年生材料工学入門の授業で新日鐵住金株式会社、北九州エコタウンの工場見学、九州電力玄海原子力発電所見学、4年関東地区への工場見学旅行の実施(材料)	A(機) A(電) A(制) A(生) A(材)	A	A	今年度と同様に実施予定。(機械) 例年通り対応(電気) 次年度も継続。(生化) 可能な限り多くの工場見学を実施する(材料)
119	Ⅰ	1	(4)	⑪	企業訪問、工場見学などの実施状況把握	○													△	△	△	△	△				○	学生課で把握している．(教務主事) 玄海原子力発電所と伊都変電所の見学を実施済み(3年生)。ダイハツ九州工場の見学を実施(2年生)。教務には報告済み(電気) 4C安全工学の授業の一貫として，JNC水俣工場危険体感センターの研修に参加した(生化) 企業訪問、工場見学などの実施状況については就職担当教員が把握している．(材料) 企業訪問については学生生活支援係、工場見学については教務係で把握している。(学生課)	B(教) A(電) A(生) A(材)	A		学生課で把握し、定期的に教務委員会に報告する仕組みを作ってはどうか．(教務主事) 例年通り対応予定。(電気) 次年度も継続。(生化) 方針の変更なし(材料) 企業訪問については学生生活支援係、工場見学については教務係で把握する予定(学生課)
			(5)学生支援・生活支援																													
120	Ⅰ	1	(5)	①	学習を進める上でのガイダンスの実施	○													○	○	○	○	○					新入生に対しては合格者説明会の際に，自分がペースメーカーとなる勉強が高専では必要となること，進路に併せて1年の最初の中間試験が重要であることをデータを元に説明した．(教務主事) 本科1年生には、入学式の日に行われる学科紹介の際に、必要な自宅学習の時間など具体的なことを伝えている。また専攻科1年生にも、入学後の説明会で、専攻科での学習のあり方について伝えている。(機械) 1年生には入学時に簡単なガイダンスを実施。その他の学年は、各科目もしくは担任が必要に応じ指導。(電気) 新入生に対するガイダンスを実施した。また、各授業担当においては授業のガイダンスを行った(制御) 3年生対象：4年からのコース選択の説明会を実施。JABEEコースの学生対象に，JABEE目標に対する達成度が自動で表示される自己評価書を年度ごとに記入させている。(生化) 新1年生，新4年生，および専攻科入学生に対しガイダンスを実施した．(材料)	B(教) A(機) A(電) A(制) A(生) A(材)	A	A	H29年度新入生に対しては，3月8日の合格者説明会の際にデータを元に説明する．(教務主事) 今年度と同様に実施予定。(機械) 例年通り対応予定。(電気) 次年度も継続。(生化) 方針の変更なし(材料)
121	Ⅰ	1	(5)	①	学生の勉学のモチベーションを維持・高揚させるためのキャリアデザイン教育の充実 (第1回学科長委員会)	○													△	△	△	△	△					キャリア教育の一環としてOB講演会を年末に実施する予定。(電気) 2～4年生を対象に，企業で働く先輩社員を招き，座談会を持っている。(生化) 企業OB/OGによる講演会実施(MHI)、女性研究職に関する講演会実施(東京大　桂先生)。(材料)	A(電) A(生) A(材)	A		キャリア支援室の活動に期待する．(教務主事) 例年通り対応予定。(電気) 次年度も継続。(生化) 材料システムColloquiumを開催する。(材料)

122	Ⅰ	1	(5)	①	カウンセラー及び精神神経科医師による学生相談の実施									○														精神神経科医師及びカウンセラーなどの専門家と学生相談室員により、継続的な面接と支援を実施した。学生、あるいは担任より相談室員等に相談のあった事例に対して、必要に応じてカウンセラーのアドバイスを受けながら、個別の対応を行った。（相談）	A(相）	A		昨年度と同様に、精神神経科医師及びカウンセラーなどの専門家と学生相談室員により、継続的な面接と支援を実施する予定である。学生、あるいは担任より相談室員等に相談のあった事例に対して、必要に応じてカウンセラーのアドバイスを受けながら、個別の対応を行う。（相談）
123	外	1	(5)	①	カウンセリングの実施状況の把握および分析		△							○														相談室メンバーがカウンセラーとともに週1、ないしは2週に1度のミーティングを実施し、情報共有を図っている。さらに必要に応じてカウンセラーが協力を必要とする相談室員と対応を協議している。（相談）	A(相）	A		昨年度と同様に、相談室メンバーがカウンセラーとともに週1、ないしは2週に1度のミーティングを実施し、情報共有を図る。さらに必要に応じてカウンセラーが協力を必要とする相談室員と対応を協議している。（相談）
124	外	1	(5)	①	人権意識の確立やDV防止教育の実施		○							○														人権意識の確立の観点から「久留米工業高等専門学校いじめ防止基本方針」、「久留米工業高等専門学校いじめ防止対策規則」を制定しており、この規則に基づき担任会においていじめ等の情報収集に努めている。また、7月に「いじめ防止講演会」（1年生対象）を開催した。（学生主事）	A（学）	A		今年度同様に実施予定。（学生主事） 昨年度と同様に、学生、あるいは担任より相談室員等に相談のあった事例に対して、必要に応じてカウンセラーのアドバイスを受けながら、個別の対応を行う。（相談）
125	Ⅰ	1	(5)	①	発達障害等の問題を抱える学生を支援するための教職員協力実施									○														発達障害等の問題を抱える学生に関しては、科目担当教員、クラス担任、学生課員などの教職員の協力体制を必要に応じて構築している。（相談）	A(相）	A		昨年度と同様に、発達障害等の問題を抱える学生に関しては、科目担当教員、クラス担任、学生課員などの教職員の協力体制を必要に応じて構築する。すでに施行済の障がい者対策基本法に合わせて、各部署と相談しながら対策を進めていく。（相談）
126	Ⅰ	1	(5)	①	学生相談案件の情報共有化と守秘義務範囲の明確化検討	△	△	△	△					○													○	情報化共有と守秘義務対応について、現在体制に関する資料を作成し、検討中である。。FD会議において障がい者対策基本法についての講演を行い、各教員の意識づけの必要性と情報共有の必要性とその手法について報告いただいた。（相談）	A(相）	A		情報化共有と守秘義務対応について、次年度より相談室の体制が変わり、学科から1名ずつ、月地度のミーティングに参加することとなった。試行錯誤をする部分もあると思われるが、情報共有に関しての線引きが行いやすくなったと考える。（相談）
127	Ⅰ	1	(5)	①	学生のメンタルヘルスについての教職員対象講習会実施									○														FD会議において例年実施している。昨年度も障がい者対策基本法についての講演を行い、各教員の意識づけの必要性と情報共有の必要性とその手法について報告いただいた。（相談）	A(相）	A		FD会議において例年実施している。昨年度も障がい者対策基本法についての講演を行い、各教員の意識づけの必要性と情報共有の必要性とその手法について報告いただいた。次年度も後期に実施する予定である。（相談）
128	Ⅰ	1	(5)	①	学生のメンタルヘルス及び特別支援教育の関係規定整備及び支援実施 （第1回学科長委員会）									○													○	平成28年4月に施行された障がい者差別解消法を受けて、支援が必要な学生に対するサポート体制を検討する特別支援教育委員会の設置が進められている。同委員会は、校長を筆頭に主事、学科長、学生相談室長の各組織の長で構成されている。（相談）	A(相）	A		支援が必要な学生に対するサポート体制を検討する特別支援教育委員会がある程度整備され、本年度末より入学予定の新入生に対する面談を実施し、体制を作るなど本格的に運用することになると思われる。同委員会は、校長を筆頭に主事、学科長、学生相談室長の各組織の長で構成されている。（相談）
129	Ⅰ	1	(5)	①	学生相談室アドバイザーによる支援の促進									○														同組織は、支援が必要な学生が確認されたときに開催され、学生の必要性に応じて担当する部署を決め、サポートチームを結成し、学生のサポートを行う。（相談）	A(相）	A		特別支援教育委員会にて、必要に応じて依頼することになると思われる。相談室は必要に応じて情報提供を行っていく（相談）
130	Ⅰ	1	(5)	①	学生支援アドバイザー（再雇用教員）による支援の促進	○																						障害者支援法施行直後は、委員会が設置されていなかったことから、学生相談室にて、健康調査票の内容を元に担任や寮霧主事とともにサポートが必要な学生の保護者に対する事前面談を行い、必要なサポートについて事前に対策を立て、授業を行う教員に周知した。今後、これらの業務は上記委員会に引き継がれる。（教務主事）	C（教）	C		再雇用教員にお願いする.（教務主事）
131	Ⅰ	1	(5)	①	学生向け各種講習会(ビジネスマナー,携帯電話利用,暴力団排除等)の実施		○																					学生向け講習会として、就職希望者を対象とした「就職支援セミナー」を4月20日に、インターンシップ参加学生を対象とした「ビジネスマナー講習会」を6月15日に、携帯電話によるトラブル防止のために「ケータイ安全教室」を4月20日（1年生対象）に、「交通安全講習会」（1年生対象）を4月22日に、「暴力団排除教育」（1年生対象）を5月25日に、「いじめ防止講習会」（1年生対象）を6月30日に実施した。（学生主事）	A（学）	A		今年度同様に実施予定。（学生主事）
132	Ⅰ	1	(5)	①	入学料・授業料免除の情報提供と実施		○																					これらの情報提供についてはホームルームや掲示により行っている。（学生主事）	A（学）	A		今年度同様に実施予定。（学生主事）
133	Ⅰ	1	(5)	②	学生寄宿舎環境改善のための施設・設備の整備計画策定・予算要求			○																				筑水寮男子トイレの改修、浴室天井改修、脱衣場壁改修、食堂厨房設備の更新等を行った。また、夏季閉寮期間中に寮内の消毒を実施した。後期には居室壁紙の張替、本棚の改修等を実施する予定である。（寮務主事） 年度末に老朽化した男子寮中央トイレの改修工事および居室本棚の改修を実施する予定である。（寮務主事）	A（寮）	A	A	寮生活環境整備経費及び寮費を利用した計画的な整備計画を策定し実施する。（寮務主事）
134	Ⅰ	1	(5)	③	奨学生募集説明会の開催		○																					日本学生支援機構奨学生の募集説明会が4月14日（木曜日）16:40からD3教室において実施された。（学生主事）	A（学）	A	A	今年度同様に実施する。（学生主事）
135	Ⅰ	1	(5)	③	各種奨学金に関する情報の集約及び情報提供		○																					情報の集約は学生生活支援係で行い、ここから掲示による通知、または担任会を通してホームルームでの情報の提供を行っている。（学生主事）	A（学）	A		今年度同様に実施予定。（学生主事）
136	Ⅰ	1	(5)	④	就職・進学等の進路指導の実施											○			○	○	○	○	○					各専門学科毎に1名専属の就職主任を置き、その就職主任を中心に、学科長及び5年担任と連携しながら、個々の学生に対し就職の方向性的な指導から、履歴書の書き方や面接の練習等の具体的な指導に至るまで、丁寧かつきめ細やかな就職指導を行っている。（就職主任） 就職は、学科の就職担当教員を中心として、適宜卒業研究指導教員などが加わり、個々の学生に対して指導している。また進学については、5年担任教員を中心に指導している。また毎年12月に卒業生による実体験にもとづく講演会を3年生以上を対象に行っている。（機械） 5年担任、就職担当が指導実施。後期には、本学科OB2名（就職1名／現在大学院在籍1名）による進路に関する講演会を実施した。（電気） 実施している。（制御） 就職支援は，就職主任が実施。進学は，5年担任が実施し、就職100％の決定。企業のOBを迎えてキャリアーセミナーを実施。進路指導は，大学の学校説明会を開催（生化） 担任，就職担当教員，研究室教員が適宜実施.（材料）	A(就） A（機） A（電） A（制） A（生） A（材）	A	A	次年度より、就職実務を組織的に統括し、進学についてもデーター等の集約を行う等の業務を主業務とする【キャリア支援室】を設立する。それにより、就職・進学情報の迅速かつ組織的なデーターの集約及び分析が可能になると共に、高専教職員全体としてこれらのデーターを基盤に本校スタッフ全員が学生のキャリア形成に問題意識を持って取り組むと同時に、学生に対してはその学年に応じたキャリア教育(各学年ごとのHRを利用したOB講演会等）を実施する予定である。（就職主任） 今年度と同様に実施予定。（機械） 例年通り対応予定。（電気） 次年度も継続。（生化） 方針の変更なし（材料）
137	Ⅰ	1	(5)	④	就職・進学状況の把握	○										○			○	○	○	○	○					進学状況（本科，専攻科）の状況を9月の学科長委員会で報告した．就職状況については10月の学科長委員会で報告した．また，外部委員会や監事監査では最新の状況を報告した．（教務主事） 上記就職主任が各学科内で取りまとめ、学科内で情報の共有や把握を行うと同時に、随時開催の就職委員会の席上及び企業面談等で各学科就職主任が同席する席上で、全体的な課題から個々の案件に関する具体的な事項までの各学科間の状況の把握や意見交換を行っている。（就職主任） 教室会議等の報告で、学科の全教員が細かく把握している。（機械） 毎月開催の学科会議で担任・就職主任から報告。（電気） 毎月の教室会議で就職・進学状況を報告してもらい、情報共有している。（制御） 就職，進学の合格は，学科会議で報告され，全教員が把握している。（生化） 学科会議、メールなどで情報の共有を図っている（材料）	A（教） A（就） A（機） A（電） A（制） A（生） A（材）	A		進学状況（本科，専攻科）についてはキャリア支援室で把握し，定期的に状況を運営委員会に報告するのがよい．（教務主事） 次年度より、就職実務を組織的に統括し、進学についてもデーター等の集約を行う等の業務を主業務とする【キャリア支援室】を設立する。それにより、就職・進学情報の迅速かつ組織的なデーターの集約及び分析が可能になると共に、高専教職員全体としてこれらのデーターを基盤に本校スタッフ全員が学生のキャリア形成に問題意識を持って取り組むと同時に、学生に対してはその学年に応じたキャリア教育(各学年ごとのHRを利用したOB後援会等）を実施する予定である。（就職主任） 今年度と同様に実施予定。（機械） 例年通り対応予定。（電気） 次年度も継続。（生化） 方針の変更なし（材料）
138	Ⅰ	1	(5)	④	進路選択支援に関する他高専の取り組み事例調査	○										○												平成28年春、就職統括主任教員が高専女子フォーラム九州大会に学生を引率し、その際他校の就職担当者と情報交換や取り組みの事例を調査した。さらに就職統括主任教員が第五ブロックの鹿児島高専と都城高専を個別に訪問し、両校の就職担当教員及び担当事務部と就職に関する取り組みや体制についてヒヤリングや意見交換を行った。また熊本高専主催の九州沖縄地区高専フォーラム（12／3　＠八代キャンパス）での『高専生の就職』に関するシンポジウムに参加し、参加企業や各高専就職担当者と情報／意見交換を行った。（就職主任）	B（就）	A		上記のように『キャリア支援室』を設立することにより、従来以上に組織的に情報収拾や意見交換を行う予定（就職主任） キャリア支援室の担当となる.（教務主事）
139	Ⅰ	1	(5)	④	キャリア教育の一環としての就職活動準備セミナー等の実施											○												1／11　四年生対象の就職活動準備セミナーを（株）マイナビ様から講師招聘して実施した。また3月11日（土）に例年通り、本校第一＋第二体育館を会場に九州地区高専生を対象の合同企業説明会を従来以上の参加企業規模で開催予定。また地元産業活性化のため、3／10、テクノネット久留米参加企業対象の企業説明会を11社の参加を得て、実施予定。（就職主任）	A（就）	A		上記のように『キャリア支援室』を設立することにより、従来以上に学生に対してはその学年に応じたキャリア教育(各学年ごとのHRを利用したOB後援会等）を実施する予定である。（就職主任）
140	Ⅰ	1	(5)	④	就職活動採用時期変更への対応											○												前年度末に保護者宛に就職活動採用時期変更の周知及び本校の対応について書面にて通知済み。学生にも就職主任を通して説明済み。また本校訪問の企業人事担当者に対しても本校の対応を丁寧に説明。（就職主任）	A（就）	A		今年度と同様な対応を予定。（就職主任）

141	Ⅰ	1	(5)	⑤	学生の自主的学習を進める上での相談・助言の体制整備	○													○	○	○	○	○	○	○			学校として、日常的な事柄なのであり、学生相談室等もあるので、とくに体制整備は必要ないと考えている。(機械) 担任、各科目担当で行っており、学科としては特に制度は設けていない。(電気) 各教員において実施している。(制御) オフィスアワーは設定していないが，教員が在室している限りいつでも実施している。(生化) 特にオフィスアワーを決めてはいないが適宜対応している。1-4年生であれば学級担任、5年生、専攻科生であれば研究室の教員が助言を与えている。(材料) 英語では学生のネットアカデミーの進捗状況を教員がモニターし、助言している。(文) 各教員で質問に来た学生の対応をした。その学生を教えている教員が対応する時間が取れない場合、同じ科目の教員が代わりに対応するなど科目内で協力し合った。(理)	A(機) A(電) A(制) D(生) A(材) A(文) A(理)	A	A	Webシラバス記載のルーブリックが学生の達成度の自己評価に有用とされている.（教務主事） 今年度と同様に実施予定。(機械) 例年通り対応予定。(電気) 授業・会議が無いときは，いつでも質問に応じているが，教員の業務多忙により，学生の要求するレベルで対応出来ていない。業務軽減が根本的に求められている。(生化) 方針の変更なし(材料) 継続(文) 教育研究活動等の状況とその成果の社会に対する公表する。(理)
142	Ⅰ	1	(5)	⑤	学生の主体的学習を増やすための方策検討	○			○										○	○	○	○	○	○	○			後期、専攻科主事室で検討する。(専攻科主事) 5年生の専門必修科目、機械要素設計実験において、個々の学生が設計したハンドルからグループ代表のハンドルを選ばせ、そのハンドルをグループのハンドルとして、製作し強度試験を行い、所定の強度にならなかった場合は、原因の究明、改善点の抽出をグループ討議により、行わせている。これらの過程で学生は、座学や演習で学んだ知識を用いて議論する。この過程を通して、学生に主体的学習を促せている。(機械) 予習・復習時間を増やすように、各担当教員が各科目で工夫している。(電気) 各教員において実施している。(制御) 生化1年生を対象として，モル道場（化学Ⅰの自学教室で，適宜学生からの質問を受け付ける）を実施。生化3年生を対象に，無機化学勉強会（小テストも実施）を夏休み期間に10回実施。(生化) 材料工学演習で毎回レポート提出を義務化。(材料) 今年度はウェーブホールにwifiが設置され、学生がネットアカデミーに取り組みやすくなった。(文) 数学問題集の解答を学生に配布し、自学自習できるようにした。各教員で演習のプリントを配布するなどで対応した。学生の学力に応じた個別の課題を工夫した。特に意欲的な学生には進んだ教材を提供し指導した。(理)	A(機) A(電) A(制) C(生) A(材) B(文) A(理)	A		仙台高専では学修単位を限度いっぱい設定し，3時限で終了として自主的学習を促しているとのことであった.（教務主事） 今年度と同様に実施予定。(機械) 例年通り対応予定。(電気) 学生が主体的に学習時間を増やす動機づけの，根本的な取り組みは残念ながら出来ていない。(生化) 方針の変更なし(材料) 継続(文) 自学自習のための課題の工夫、指導を続ける。(理)
143	Ⅰ	1	(5)	⑤	外国留学に対する支援の実施	○																		○				海外留学の場合の夏から次の夏までの2年度に渡って休学となり，規則上は卒業が2年遅れとなるが．留学前後で出席と成績を引き継ぐことで1年遅れの卒業となるようにしている.（教務主事） 留学希望者に情報提供を行うなど支援している。(文)	A(教) A(制) D(生) A(材) A(文)	A		出席と成績の引継ぎ制度を続ける.（教務主事） 継続(文)
144	Ⅰ	1	(5)	⑤	外国人留学生に対する学習・生活面の支援（Ⅰ3③再掲）	○		○											○	○	○	○	○					平成29年度より日本事情を日本語・日本事情に変更し本校国語教員の担当とすることにした.（教務主事） 留学生のみを対象とした日本語の授業（年間60時間）を実施した.（教務主事） 留学生には該当クラスの寮生から日本人チューターを選び、学習や生活面の相談・支援にあたっている。さらに、寮務主事室と寮生活支援係が適宜支援している。寮生会による寮祭や異文化交流会も開催し、留学生と寮生間の親睦を深めた。女子寮では寮母による女子留学生との交流も図られている。(寮務主事) 後期には冬の寮祭を実施し，ボウリングや餅つき、BBQによる寮生相互の交流を図った。(寮務主事) 寮生から留学生の学習を支援する学生を選出しており、担任を中心に各教員が、学習・生活の両面から支援している。(機械) 3年生担任を主に実施。4年生留学生については、日本語読解力不足の懸念があるため、担任が対応した。(電気) 該当なし。(制御) 本科3年アウリキと4年クリスの相談員と担任で支援。アウリキに対しては，生物応用化学基礎の科目で，低学年の復習を8人の教員で連携して教授し，合わせて日本語の会話と文書作成を指導。(生化)	A(寮) A(機) A(電) B(生) A(材)	A		年間60時間、留学生のみを対象とした日本語の授業を行う予定（教務主事） 次年度入寮予定の3名の留学生を加えて，従来通りの学習・生活面での支援を行う。また国際交流事業で来校する短期留学生に対しては，宿所の提供を中心にサポートを継続する。(寮務主事) 今年度と同様に実施予定。(機械) 例年通り留学生のいる学年の担任が主に対応予定。(電気) 留学生のモチベーションが低く，支援を行っても，留学生に取って十分吸収されていない。今後も，モチベーションの低い留学生が来ることが予想され，留学生のモチベーションを上げていく取り組みが必要になると思われる。(生化) 方針の変更なし(材料)
145	Ⅰ	1	(5)	⑤	マイクロソフト包括ライセンスの利用							○																個人利用オプションによるoffice利用者に対してoffice365への切替を促すとともに、利用方法等を担任会で案内した。(総合)	A(総)	A		引き続き、個人利用オプションによるoffice利用者に対してoffice365への切替を促すとともに、利用方法等を適宜周知する。(総合)
146	Ⅰ	1	(5)	⑥	学校の枠を超えた学生の交流活動の実施	○	○		○				○															10月21日、四高専研究発表会に1年生の希望者参加、ポスタ発表、講演の聴講する。(専攻科主事) 1月末に九州沖縄地区高専学生会交流会に参加した。今年度は8月29日・30日に唐津で開催された高専女子交流会に3名の学生が参加した。現在、有明高専との中庭プロジェクトを計画中である。(学生主事) 高等教育コンソーシアム久留米の学生主体の活動として、久留米市の広報誌（広報くるめ）に「くるめ学生通信」の記事を各校で連載している（産学民）。	A(学) A(産)	A	A	今年度同様に実施予定。(学生主事) 引き続き高等教育コンソーシアム久留米の学生主体の活動として、久留米市の広報誌（広報くるめ）、「くるめ学生通信」取材活動に協力する（産学民）。
147	Ⅰ	1	(5)	⑥	課外活動における外部コーチの活用		○																					現在文化局・体育局、あわせて35団体が活動しているが、そのうち15団体がコーチを導入している。(学生主事)	A(学)	A		今年度同様に実施予定。(学生主事)
148	Ⅰ	1	(5)	⑥	課外活動に対する支援		○																					必要である団体にはコーチを導入し支援している。予算に関しては後援会と協力しサポートしている。設備に関しては厚生補導経費・後援会課外活動整備費により予算の許す範囲で支援している。今年度は、テニスネット・ラインテープ・デジタイマー・コンタクトパット・ピッチングマシーン防護ネットなどを購入した。(学生主事)	A(学)	A		今年度同様に実施予定。(学生主事)
149	Ⅰ	1	(5)	⑥	専攻科生の学生会行事参加方法検討		○		○																			年齢構成・人数構成を考えた場合、専攻科生が本科の学生会行事に参加することは、教育的効果は少ないと考える。引き続き検討する。(学生主事) 前期未検討。(専攻科主事)	A(学)	A		引き続き検討する。(学生主事)
150	Ⅰ	1	(5)	⑥	学生大会等を通じた学生の要望把握		○																					およそ月に一度のペースで学生会と学生主事室の合同会議を開催し、学生大会等からの学生の意見を収集している。以前より要望されていた外灯の増設・ウェーブホールの無線ラン導入・傘ステーションの設置が実現した。(学生主事)	A(学)	A		今年度同様に実施予定。(学生主事)
151	Ⅰ	1	(5)	⑥	学生支援に係る情報の学生への提供		○																					掲示・担任会を通してホームルームによる情報の提供を行っている。(学生主事)	A(学)	A		今年度同様に実施予定。(学生主事)
152	認	1	(5)	⑥	学生対象の各種アンケート調査実施、分析及び対策検討		○	○						○														ビジネスマナー講習会後にアンケートを実施し、よりよい講習会が実現するように努めている。(学生主事) 新入寮生に対し、寮生活に関して個人面談を行った。主事室にて分析および対策を検討し、必要に応じて寮生の指導を行った。(寮務主事) 学生の心の状態を把握するため、1～3年生にHyper-QU、4年生以上にYGPIを実施しました。実施後、全担任に対してカウンセラーによる説明会を開催し、その見方や役立て方について解説しました。アンケートの結果で要支援になっている学生の対応については、担任から活発な質疑応答がありました。また、担任に対して面談が必要な学生や対応に苦慮している学生については、カウンセラーにつなぐように依頼しています。(相談)	A(学) B(寮) A(相)	A		今年度同様に実施予定。(学生主事) 次年度においても引き続き新入寮生に対して個人面談を行い、必要に応じてサポートを行う。(寮務主事) 次年度も学生を対象としたアンケート調査を実施したい。障がい者対策基本法にあわせ、よりアンケートの重要性が高まると思われることから、体制及び予算面からの実施体制の強化、および全学的な行事としての設定を目指していきたい。(相談)
153	Ⅰ	1	(5)	⑥	成績優秀者,課外活動等で活躍した者等の表彰		○		△										△	△	△	△	△	△	△			卓越した学生に対する授業料免除実施基準に基づき機構に推薦した。また、本年度卒業生に対し、学生会・寮生会・課外活動等で輝かしい実績を残した学生に対し、卒業式において表彰する予定である。(学生主事) 材料工学コース学生の表彰申請。(専攻科主事) 機械学会、および設計工学会による成績優秀者の表彰を申請し、実施している。(機械) 電気学会支部長賞に5年生と専攻科2先生の成績優秀者として推薦の予定。(電気) 卒研発表と先駆か研究論文発表で，発表賞を選出し表彰している。(生化) 卒業成績最優秀者に日本化学会九州支部長賞を2位者に化学工学会九州支部長賞をもって表彰している。(生化) 成績優秀者の該当があれば、その都度応募する体制をとっている。また，学会（日本金属学会,日本鉄鋼協会,日本鋳造工学、表面工学会）等での表彰については，学科で相談し優秀者の推薦を行っている.（材料） 該当なし。(文) 科学コンクール入賞者をHPで紹介している。また、東京理科大学主催の科学コンクールに参加し、入賞者を出した。(理)	A(学) A(機) A(電) A(生) A(材) A(理)	A		今年度同様に実施する。(学生主事) 今年度と同様に実施予定。(機械) 例年通り対応予定。(電気) 次年度も継続。(生化) 方針の変更なし(材料) 次年度も補習、勉強会、科学コンクールへの参加を続ける。(理)

154	Ⅰ	1	(5)	⑦	寮生数増加のための取り組み推進			○																				寮居室、共通部分の計画的な整備・改修による住環境の改善、給食業者との食堂懇談会による食事の改善、体験入寮制度の実施、学校説明会や一日体験入学における寮のPRを行った。(寮務主事) 後期2回，年間で4回の体験入寮を行い、2名の入寮者を得た。(寮務主事)	B(寮)	A	A	次年度においても引き続き、体験入寮、住環境や食事の改善、学校説明会等における寮のPRを実施する。(寮務主事)
155	Ⅰ	1	(5)	⑦	6S(整理・整頓・清掃・清潔・躾・作法)推進活動の実施			○																				ゴミ分別回収、不要物品リサイクル、寮内外の清掃および閉寮前の大掃除を計画的に実施した。また、テーブルマナー講習会やヘルスチェックキャンペーンを実施し、寮生の資質向上を図った。後期にも前期と同様に、定期的清掃および大掃除を計画的に実施した。また食堂委託会社による料理教室を行い、20名の出席を得た。(寮務主事)	A(寮)	A		次年度においても引き続き、体験入寮、住環境や食事の改善、学校説明会等における寮のPRを実施する。(寮務主事)
156	Ⅰ	1	(5)	⑦	寮生による寮行事の実施			○																				寮生会役員を中心に、寮祭、TA、ゴミ分別回収、外部寮視察、避難訓練、食堂懇談会等を実施させることで、寮生会の自主自律を求めている。後期には防災避難訓練、寮祭などのイベントや他高専への寮視察を寮生会役員が中心となって実施した。(寮務主事)	A(寮)	A		引き続き、寮生会を中心に各種寮行事を実施する。(寮務主事)
157	Ⅰ	1	(5)	⑧	学生便覧の発行																						○	予定どおり、1，450部発行し、学生、教職員及び外部機関へ配布した。(学生課)		A	A	
158	Ⅰ	1	(5)	⑧	高専通信の発行					○																		計画通り第82号を7月に、第83号を12月に発行した．3月発行予定の第84号も原稿を依頼中である。(企画主事)	A(企)	A		年3回の発行を継続する．(企画主事)
159	Ⅰ	1	(5)	⑧	図書館だよりの発行						○																	年2回(7月、12月)発行。今年度7月分・12月分を発行し、全学生・教職員および関係各所へ配布した。(図)	A(図)	A		次年度も継続する。(図書館)
160	Ⅰ	1	(5)	⑧	成績通知及び担任所見による保護者との連携	○																						年4回の試験に合わせて，前期中間(7月)，前期期末(10月末)，後期中間(12月末)，年度総合(3月)に成績表を保護者に送付している．(教務主事)	A(教)	A		年4回の試験に合わせて、前期中間(7月)、前期末(10月末)、後期中間(12月末)、学年末(3月)に成績表を保護者に送付する．(教務主事)
161	Ⅰ	1	(5)	⑧	保護者懇談会の実施	○																						5月27日の後援会総会の午後クラス懇談会を本科では25クラス中24クラスで行った．後期は高専祭期間中に9クラスで行った．(教務主事)	A(教)	A		5月27日の後援会総会の午後及び高専祭期間中に実施予定(教務主事)
			(6)教育環境の整備・活用																													
162	Ⅰ	1	(6)	①	緊急度に応じた施設等の整備推進	○																				○		狭隘工事を指摘されていた生物応用化学科実験室の移転充実を行った。(教務主事) 平成28年度営繕事業で旧情報処理センター改修工事が採択されたことから、生物応用化学科実験室を旧情報処理センターに移転し、学習環境の改善を図った。(総務課)	A(教) A(総)	A	A	校内の状況を調査し，緊急度を把握する．(教務主事)
163	Ⅰ	1	(6)	①	実験室・設備等の清掃・安全巡視の実施																					○		安全衛生委員会委員による巡視及び産業医と衛生管理者による巡視を毎月定期的に行い、衛生面や安全面などからの点検を行った。また、不備な箇所は関係部署と連携し改善を図っている。(総務課)	A(総)	A		平成28年度に引き続き、巡視等を行う。(総務課)
164	認	1	(6)	①	△教室等(自学自習スペース含む)の利用率調査の実施																					○		保有する施設の稼働率調査を12月に実施し、その結果を施設・環境委員会に報告すると共に施設の将来計画へ反映させる。(総務課)	A(総)	A		引き続き、保有する施設の稼働率を年1回調査し、その結果を施設・環境委員会に報告すると共に施設の将来計画へ反映させる。(総務課)
165	Ⅰ	1	(6)	①	教育環境の確保、安全で快適な教育環境を意識した取組の推進	○		○											○	○	○	○	○	○	○			8月に夜間照明の増設工事を約250万円の予算で行い，夜間の暗がりを改善した．(教務主事) 寮施設の整備・改善を実施しているが、今年度は特に男子寮トイレの改修、浴室天井の改修、脱衣場壁の改修を行い生活環境の改善を行った。後期も閉寮期間を利用して、食堂や浴室、居室の不具合の改修、消毒を実施する。(寮務主事) 旧機械工作工場および旧機械電気実験実習棟をものづくり教育センターとして改修し、教育環境を確保し、安全で快適な教育環境を構築した。機械加工実験実習室、造形実習室、鋳造実習室、溶接整形実習室および複数の実験室を改修し、新たに製図室を配置した。また、電気炉、ワイヤカット放電加工機、3Dプリンタ、CAD/CAM等の設備を新規に導入した。(機械) 自習室に学生用図書を追加予定。(電気) SJ教室の整備を進めている。(制御) 生化実験室の狭隘解消のため，CJ教室を前計算機センターに移設。(生化) 学期末のアンケートにおいて教育環境の問題点を指摘してもらうようにしており、適宜改善の実施(材料) 体育科では学生の熱中症やけがの防止に十分な配慮をして授業を行っている。英語では、マルチメディア教室(LL教室)には音声教材・視聴覚教材を活用できる環境が整備されている。(文) 安全で快適な一般文科理科棟の改修を引き続き要求した。(理)	B(教) B(寮) A(機) A(電) A(制) C(生) A(材) A(文) B(理)	A		ものづくり教育センター2期の採択に向けプランを練り上げる．(教務主事) 寮整備経費を利用して、継続的な寮設備・環境の維持改善に努める。(寮務主事) 今年度と同様に実施予定。(機械) 自習室等の整備を行う。(電気) 卒研の実験室を2人の教員で共用している実験室が2個所有り，今後解消していく必要がある。(生化) 新任教員の研究室の環境を整える(材料) 継続(文) 次年度も安全で快適な一般文科理科棟の改修を引き続き要求する。(理)
166	Ⅰ	1	(6)	①	実験・実習における安全の確保(CJ移設を含む)(第1回学科長委員会)	○																○				○		生化実験室の移転工事が営繕要求で認められ，完工した．(教務主事) 教育研究支援室で実習での安全について情報共有を行った．(教務主事) 生化実験室の狭隘解消のため，CJ教室を前計算機センターに移設。(生化) 平成28年度営繕事業(二次)で情報処理センター改修が採択され、平成29年1月に実験環境が整備された。(総務課)	B(教) A(生) A(総)	A		学生，教職員ともに安全意識を高める．(教務主事) 卒研の実験室を2人の教員で共用している実験室が2個所有り，今後解消していく必要がある。(生化)
167	Ⅰ	1	(6)	①	キャンパス内の外灯の増設(第1回学科長委員会)		○																			○		学生駐車場とそこまでの動線など必要なところに増設した。(学生主事) 厚生補導委員会、施設・環境委員会で外灯増設が承認され、8月上旬に着工し、9月12日(月)に工事が完了した。(総務課)	A(学) A(総)	A		十分とは言えないが、予算のこともありひとまず終了とする。(学生主事) 次年度以降、夜間の安全性を確認し、場合によっては外灯の増設を検討する。(総務課)
168	Ⅰ	1	(6)	①	西鉄宮の陣駅から本校までの通学路への街灯設置陳情の継続(第1回学科長委員会)		○																				○	堤防拡張に伴い、自転車通行帯を有する歩道の設置と合わせて陳情している。(学生主事)	A(学) A(総)	A		久留米市・小森野町との連携を図りたい。(学生主事)
169	Ⅰ	1	(6)	①	自転車・バイク置き場から駐車場を経て教室まで導線の一部見直し(第1回学科長委員会)		○																			○		学生からの要望もあり継続して検討する。(学生主事) 第1回施設・環境委員会で管理棟横の通路を遮る駐車場について検討した。(総務課)	B(学) D(総)	B		次年度予算を確保し取り組む予定。(学生主事) 次年度の施設・環境委員会で検討する。(総務課)
170	Ⅰ	1	(6)	①	一般文科理科棟改修案検討	○																		○	○	△		平成29年度概算要求に申請した一般文科理科棟の改修プランに，アクティブラーニング実施に配慮した計画を取り入れた．採択されなかったが教育機能の面では評価されていた．平成30年度概算要求に改善した案を提出した．(教務主事) 具体的な改修計画を検討し提出した。(文) 一般文科理科棟改修の平成29年度文部科学省概算要求が認められなかった。(理) 平成29年度概算要求事業に提出したが不採択となった。引き続き意見交換等の内容を踏まえ、平成30年度概算要求事業を行った。(総務課)	B(教) B(文) B(理) D(総)	A		平成30年度の予算措置が期待される．(教務主事) 継続(文) 一般文科理科棟改修の平成30年度文部科学省概算要求を行う。(理) 施設整備費補助金の概算要求事業等に関する意見交換会で機構本部と協議し、平成30年度採択を目指す。(総務課)
171	Ⅰ	1	(6)	①	アクティブラーニング等の学習環境充実を図る施設整備の検討	○																				○		平成29年度概算要求に申請した一般文科理科棟の改修プランに，アクティブラーニング実施に配慮した計画を取り入れた．採択されなかったが教育機能の面では評価されていた．(教務主事)	B(教)	A		平成29年度のICT利用教育のための無線LANが整備される．(教務主事) 施設整備費補助金の概算要求事業等に関する意見交換会で機構本部と協議し、平成30年度採択を目指す。(総務課)
172	Ⅰ	1	(6)	①	外部キャンパス診断の実施およびそれに基づくマスタープラン検討					○																△		昨年度に引き続き久留米工業大学工学部建築・設備工学科教員2名を施設・設備アドバイザーに委嘱し、1月16日にキャンパス診断を行った。(総務課)	A(総)	A		本年度に引き続き、施設・設備に精通した専門の教員を施設・設備アドバイザーとして委嘱し、国立高専機構施設整備5か年計画に基づいたキャンパス診断及びマスタープランを検討して行く。(総務課)
173	Ⅰ	1	(6)	①	筑後川築堤工事に伴う再配置検討	△	△			○																△	△	予算規模に応じた2案を検討した。重要財産判定によって予算規模が大きく異なるので、高専機構の重要財産判定の結果を待っている状態である．(企画主事) 9月12日に機構本部(財務課、施設課)と情報交換を行い指導を受けるとともに、河川事務所と土地・物件調査を行い、調書作成に至った。(総務課)	A(企) C(総)	A		機構の重要財産判定の結果を得次第，詳細検討する。(企画主事) 築堤用地の重要財産判定及び保証額確定に向け作業を行い、金額に応じた再配置計画を検討する。(総務課)
174	Ⅰ	1	(6)	①	設備整備マスタープランの継続的見直し	○	△																			○		平成29年3月2日に教務主事と学科長で打合せを行い，更新20件，新規5件の順位を決定した．(教務主事) 平成29年3月に設備整備マスタープラン検討会を開催し、産業構造の変化や技術の進展に対応した教育環境の確保、安全・安心対策や環境に配慮した老朽施設設備の改善を検討した。(総務課)	A(教) B(総)	A		機構での予算化は難しい情勢にあるが，準備を整えておく．(教務主事) 毎年設備整備マスタープラン検討会を開催し、設備整備の計画的改善を図る。(総務課)
175	Ⅰ	1	(6)	①	老朽化施設・設備の整備に関する営繕要求の見直し及び予算要求	○																						校長のイニシアチブの下に行っている。(教務主事)	A(教)	A		施設環境委員会で進める。(教務主事)
176	Ⅰ	1	(6)	①	植栽の整理による学生アメニティスペースの実現検討(第1回学科長委員会)	○																				○		管理棟と図書館の間の庭園の草刈りを行った．また，8月の1日体験入学の前に校内の草刈りを実施した．専攻科棟の周囲も整理された．(教務主事) 産学民連携テクノセンター西の外灯を覆っていた木を伐採し、夜間の安全確保を図った。(総務課) 有明高専創造工学科に中庭(管理棟南)の有効活用方法を打診した。(総務課)	A(教) D(総)	A		引き続き進める．(教務主事) 平成28年度に有明高専創造工学科建築コースで中庭(管理棟南)プロジェクトが立ち上がった。次年度は学生アメニティスペースの実現に向けて具体的な協議を行う。(総務課)

177	Ⅰ	1	(6)	①	学生や来訪者の利用に資するユニバーサルデザインの導入検討																					○		概算要求や営繕要求を検討する際に、ユニバーサルデザインを導入し、多くの学生や来訪者が使いやすい施設設計を検討する。(総務課)	D(総)	D		概算要求一般文科理科棟(総務課)
178	Ⅰ	1	(6)	①	省エネ対応機器の導入検討																					○		情報処理センター改修に伴いLED照明等の省エネ対応機器を導入した。(総務課)	A(総)	A		引続き省エネ対応機器の導入を推進する。(総務課)
179	Ⅰ	1	(6)	①	無線LANの導入及びネットワークの高速化検討							○																SINET5(1Gbps)への移行と高速化へ向けた学内ネットワーク環境を整備し、その移行を完了した(7月)。高速なネットワーク導入に伴う情報セキュリティ対応と、平成29年度高専統一ネットワークに伴う学内無線LAN導入に向けた準備と対応として、ネットワーク認証を導入し、校内各部署におけるその設定を完了した。~~現在、校内各部署でその設定を進めている。~~また、ネットワーク機器のハード的不調への対応や各種設定を逐次更新することで、本校ネットワークの維持管理に努めた。文部科学省主催の講習会に参加する等して情報セキュリティ技術の向上を図り、技術的な問題点を解決することで、ネットワークの安定な運用に努めた。情報セキュリティインシデントが1件発生し、規定に基づく適切な対応と機構への報告を行った。標的型攻撃メールのような情報セキュリティーインシデントの発生が危惧されるネットワークセキュリティ関係事項が多く発生したが、関係各位各署と連携を図り、学内への周知警告(学内周知13件)を行うこと等で適宜対応した。平成29年度導入、高専統一ネットワーク導入に関する機構からの調査が多く依頼され、適宜それらに対応した。引き続き、新規ネットワーク導入に向け、その準備と対応を行う予定である。(総合)	A(総)	A		各所との調整や事前準備を十分に行い、高専統一の新規ネットワーク導入へ備え、その導入とともに滞りなく現行ネットワークから移行する。新規ネットワークの安定な運用を図るとともに、新規ネットワークで用意されないネットワークサービスについて平成30年度以降の本校の対応を検討する。文部科学省、機構本部主催の情報セキュリティに関する講習会等に積極的に参加し、引き続き本校ネットワークにおける情報セキュリティ技術の向上を図る。(総合)
180	Ⅰ	1	(6)	①	薬品・危険物等の購入・保管・廃棄管理体制整備														△	△	△	△	△	△	△	○		関係する教員は検査を受け適切に対応している。(電気) 薬品保管庫の不足分を購入予定であるが，本年度は予算の目処は立っていない。毒劇物については，適切に管理されている。(生化) 職場巡視の指示に従い、継続的改善を実施(材料) 該当なし(文) 毒物・劇物の立ち入り検査を受けた。(理) 久留米工業高等専門学校毒物、劇物及び危険物取扱規程に基づき、9月上中旬に薬品・危険物等の管理状況を確認した。(総務課)	A(電) C(生) A(材) A(理) A(総)	A		例年取りに対応予定。(電気) 試薬棚の購入が出来ないため，床，実験台に試薬瓶を置いている状況が続いているが，予算の目処がないため解消の見込みはない。(生化) 方針の変更なし(材料) 次年度も毒劇物を安全に管理する。(理) 久留米工業高等専門学校毒物、劇物及び危険物取扱規定に基づき、薬品・危険物等の購入・保管・廃棄を適正に管理する。(総務課)
181	Ⅰ	1	(6)	①	PCB廃棄物の所在確認および保管・処分対応																					○		何度毎の処分計画を立て、処分を行う予定であり、保管は、専用の保管庫で管理している。(総務課)	A(総)	A		
182	Ⅰ	1	(6)	①	専攻科棟学習環境の整備				○																			学習環境整備について後期に検討、可能なものから実施する。(専攻科主事)	B(専)	B		
183	Ⅰ	1	(6)	②	「実験実習安全必携」の新任教員及び新任技術職員への配布	○									○													4月1日に行った新任教員研修で3名全員に配付した．(教務主事)	A(教)	A	A	4月3日の新任教員研修での配付を次期教務主事にお願いする．(教務主事)
184	Ⅰ	1	(6)	②	「安全の心得」の活用	○									○													機械加工実習(機械3クラス，電気電子1クラス，材料工学1クラス)の最初の事業で行う安全教育の際の資料の参考にしている．(教務主事)	A(教)	A		機械加工実習(機械3クラス，電気電子1クラス，材料工学1クラス)の最初の事業で行う安全教育の際の資料の参考にしている．(教務主事)
185	Ⅰ	1	(6)	②	ヒヤリハット報告の周知方法検討	○									○													ヒヤリハット事例が発生した場合の報告の周知及び学生に対しても周知を行った．(教務主事)	A(教)	A		ヒヤリハットの提出をお願いする．(教務主事)
186	Ⅰ	1	(6)	②	SD会議における実験実習時の安全再確認										○													3月に開催するSD会議において実施予定(教務主事)		A		
187	Ⅰ	1	(6)	②	安全衛生管理に関する外部講習会への教職員派遣	○									○											○		労働基準監督署主催の化学物質リスクアセスメントに係る説明会に参加した。(総務課)	A(総)	A		安全衛生管理に関する外部講習会の案内があれば、積極的に参加する。(総務課)
188	Ⅰ	1	(6)	②	専門教室棟1F生化実験室(CJ)安全対策検討	○																○				○		旧情報処理センターの生化実験室への改修に関する営繕予算が認められ，平成28年度後期に改修を行った．(教務主事) 薬品保管庫の不足分を購入予定であるが，本年度は予算の目処は立っていない。毒劇物については，適切に管理されている。(生化) 平成28年度営繕事業(二次)で情報センター改修が採択され、平成29年1月に実験環境が整備された。(総務課)	A(教) A(生) A(総)	A		ドラフト排気の安全を確認する．(教務主事)
189	Ⅰ	1	(6)	③	女子学生のための教育環境の整備等の実施(Ⅰ1(1)⑤再掲)	○																				○		検討中である。(総務課)		B	A	
190	Ⅰ	1	(6)	③	女性教職員の職場環境の整備等の実施	○																				○		男女共同参画推進室で検討し管理棟2階に女性教員談話室(仮称)を設けた．(教務主事)	A(教)	A		空調設置等女性教員談話室(仮称)の充実を図る．(教務主事)
191	Ⅰ	1	(6)	③	男女共同参画及びワークライフバランスの推進	○																				○		平成28年度，男性教員1名の育児休業中．(教務主事) 来年度同居支援プログラム人事交流制度による受入の協議中．(教務主事)	A(教)	A		
192	Ⅰ	1	(6)	③	女子学生数の増加対策検討(第1回学科長委員会)	○													○	○	○	○	○	○	○			福岡市で10/2開催予定の福岡県内3高専合同説明会へ，女子学生2名を派遣した．(教務主事) 実験室の環境整備を検討中。(機械) 志願者が増えるように、学科ウェブページに中学生向けのページを用意し、配布用のカードを作成した。(電気) 該当なし。(文)	A(教) A(機) B(電) A(生) A(材)	A		学校説明会への女子学生の参加は有効であると考える．(教務主事) 今年度と同様に実施予定。(機械) どのような対応が可能か検討する(電気) 学生の半数が女子学生であり，50%を上回らないように注視していく必要がある。(生化) 女子学生向けのHPを検討する(材料)
193	Ⅰ	1	(6)	③	女性教員の増加及び女性教員の管理職登用の検討(第1回学科長委員会)	○													○	○	○	○	○	○	○			新規採用にあたり，応募資格に能力が同等と認められる場合は、女性を優先すると記載した。(機械) 既に1名女性教員がいるため、その存在自体が女性教員応募増に結びつく。公募の際にも、男女共同参画を推進している旨を明記。(電気) 未検討。(制御) 女子教員(1／12)。(生化) 本年度女性教員が着任した。(文)	A(教) A(機) B(電) A(生) A(材) A(文)	A		管理職研修への派遣が考えられる．(教務主事) 今年度と同様に実施予定。(機械) 現時点では新規採用予定はないので対応は考えていない(電気) 次回，教員公募において女性教員の積極採用をはかる。(生化) 新規採用女性教員の環境整備を行う(材料)
194	Ⅰ	1	(6)	③	女性教職員の勤務条件の改善検討及び校長懇談会の実施(第1回学科長委員会)	○																				○		平成28年度の女性教員比率向上のためのポジティブ・アクションに係る特別経費の執行をテーマとした懇談会を実施した。(教務主事)	A(教)	A		女性教員のワークライフバランスの問題は業績を積む上で重要な課題と考える．(教務主事)
195	Ⅰ	1	(6)	④	図書、学術雑誌、視聴覚資料等の系統的収集、整理及び有効活用						○																	学生用として購入すべき図書・雑誌等については、各学科に選書を依頼し、購入・配架を実施している。学生からの図書・視聴覚資料のリクエストにも可能な限り対応している。7月に学生によるブックハンティングを実施し、好評であったため、12月にも実施した。また、図書資料を有効に活用してもらうため、利用が多い図書や教員推薦図書等をコーナー化し、利用促進に努めている。(図)	A(図)	A	A	次年度も継続する。(図書館)
196	Ⅰ	1	(6)	④	ICカードを用いた学生データ(教務・学生・寮関係)一元管理システムの導入検討	○	○	○																			○	現状では優先度は低いと判断する．(教務主事) 検討はしているが優先順位は低い。(学生主事) 特になし。(寮務主事) 他高専の状況を調査し、検討している。予算的に厳しいと捉えている。(学生課)	B(学)	A		引き続き検討。(学生主事)
197	Ⅰ	1	(6)	④	学生・保護者メール配信システムの導入検討	○																					○	教務係において比較検討を行い候補を選定して1クラスで試用中。(教務主事) 他高専の状況を調査し、維持経費の少ないシステムを検討している。(学生課)	A(教)	A		平成29年度中に運用予定(教務主事)
198	Ⅰ	1	(6)	④	寮生外泊・欠食管理システムの導入検討			○																			○	前年度より導入検討を行っており、導入の可否について検討中である。(寮務主事)	C(寮)	A		引き続き検討を行う。(寮務主事)
199	Ⅰ	1		⑤	学校・学科・専攻科毎の教育目標の内容確認	○			○										○	○	○	○	○					毎年新学期開始時の学生便覧発行に併せて，各学科に確認を依頼している．(教務主事) 前期、未確認。後期、シラバス作成時に検討する。(専攻科主事) 対応済み。(機械) 対応済み。(電気) 実施している。(制御) 対応済み。(生化) 学科名称変更に伴う変更を行い、教務委員会、学科長委員会で審議承認された。(材料)	A(教) A(機) A(電) A(制) A(生) A(材)	A	A	新学期開始時の学生便覧発行に併せて、各学科に確認依頼中(教務主事) 今年度と同様に実施予定。(機械) 例年通り対応予定。(電気) 方針の変更なし(材料)
200	Ⅰ	1		⑤	学校・学科・専攻科毎の教育目標の社会に対する公表	○																						2016年版の学校要覧と，本校HPに各学科の教育目標と目的を掲載している．(教務主事)	A(教)	A		学校要覧と、本校HPに各学科の教育目標と目的を掲載する。(教務主事)
201	認	1		⑤	○学校・学科・専攻科毎(本科・専攻科・JABEE目標)の教育目標の教職員及び学生への周知方法改善	○			○										△	△	△	△	△					・本科ではシラバス、学生便覧による周知、JABEEプログラム目標は説明会やパネルにより行った。(電気) ・教育目標のパネルを作成し掲示した。また、専攻科担当や学級担任による説明を行った。(生化) ・ポスターにて掲示、周知を徹底した。(材料)	A(電) A(生) A(材)	A		例年通り対応予定。(電気) 方針の変更なし(材料)

202	外	1		⑤	学生指導における5年一貫教育の強みの整理（教育目標等の設定）	△	○																					15歳～20歳までの学生が集う高専では、リーダーシップの育成が5年一貫教育の強みであると考える。（学生主事）	A（学）	A		次期主事に申し送る。（学生主事）
203	認	1		⑤	○専攻科・JABEE目的目標別科目配置図整理				○										△	△	△	△	△					後期、JABEE委員会で依頼、検討する。（専攻科主事） 昨年度の審査で実施済み。（電気） 4，5年生の科目移動にともない対応した。（生化） 変更なし（材料）	A（電） A（生） A（材）	A		現状以上の対応予定はない（電気） 方針の変更なし（材料）
204	認	1		⑤	○教員シラバス活用・ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝﾎﾟﾘｼｰ周知度・目的目標周知度アンケート実施、分析及び対策検討	○			△																			授業アンケートについて，「シラバスが役に立ったか」という質問項目を，「授業はシラバス通りにおこなわれたか」に修正した．（教務主事） 後期に検討する。デジタルサイネージなどの活用。（専攻科主事） 本科ではシラバス、学生便覧による周知、JABEEプログラム目標は説明会やパネルにより行っている。（電気） 教育目標のパネルを作成し掲示。また、専攻科担当や学級担任による説明を行っている。（生化） ポスターにて掲示、周知を徹底する。（材料）	A（教）	A		授業評価アンケートを実施する。（教務主事）
205	Ⅰ	1		⑥	シラバスの作成と活用	○			△										△	△	△	△	△	△	△			機構フォーマットのWebシラバスへの移行を行っている．（教務主事） シラバスは全教員が担当科目について作成し、第1回目の授業時に説明している。（電気） 授業開始時にシラバスにより授業計画と評価方法を周知している。（生化） Webシラバス試用を行い、授業開始時にシラバスにより授業計画と評価方法を必ず説明している。(材料) シラバスを作成し活用している。（文） 学生に周知させるためにシラバスを作成した。シラバスと実際の授業は概ね整合している。また、Webシラバスへの移行を始めたが、日々の業務に追われ、作業が遅れている。(理)	A（電） A（生） A（材） A（文） B（理）	A	A	機構フォーマットのWebシラバスへの移行する。平成30年度から全高専がこれに移行する。（教務主事） ウェブシラバス以外は従来通り。（電気） 次年度，MCCシラバスに対応していく。（生化） 方針の変更なし（材料） 継続（文） Webシラバスを作成し、講義に役立てる。（理）
206	認	1		⑥	△学修単位(専攻科含む)学習時間確認方法検討	○			○																			シラバスに学修単位であることと，自学自習とレポートの提出が必要であることを明示している．教員には1単位当たり45時間分の学習が必要であること，授業時間以外の学修時間に対応する自学自習のエビデンスを保存することを，年度初めに周知している．（教務主事） 前期未検討。後期に検討する。（専攻科主事）		B		シラバスに学修単位であることと、自学自習とレポートの提出が必要であることを明示する。教員には1単位当たり45時間分の学習が必要であること、授業時間以外の学修時間に対応する自学自習のエビデンスを保存することを、年度初めに周知する（教務主事）
207	認	1		⑥	○定期試験問題年度類似確認方法検討	○			○																			教務主事室で検討した．（教務主事） 前期未検討。後期に検討する。（専攻科主事）	C（教）	C		学科で保存し教員が相互に似られるようにすることが考えられる。（教務主事）
208	Ⅰ	1		⑥	成績評価・単位認定・進級認定・卒業修了認定の学生・保護者への開示	○			○																			年4回の試験ごとに成績表を保護者へ送付している．（教務主事） 通例の方法を継続。（専攻科主事）	A（教）	A		年4回の試験ごとに成績表を保護者へ送付している．（教務主事）
209	Ⅰ	1		⑥	編・転入生が他高等教育機関で取得した単位の評価と補講の実施	○			○										○	○	○	○	○					長岡技科大との共同研究2件，豊橋技科大との共同研究4件が進められている．（教務主事） 現状、各JABEEコースでの対応。（専攻科主事） 該当者なし。（機械） 留学生以外、該当なし。（電気） 該当なし。（制御） 該当なし。（生化） 該当なし。（材料）	A（機） A（電）	A		該当なし（教務主事） 今年度と同様に実施予定。（機械） 従来通りの対応。（電気） 来年度も該当無し。（生化） 事例が発生した時に対応する（材料）
210	認	1		⑥	△年度末成績・及落査定・卒業査定意見申立制度導入の検討	○																						及落査定会議前に学生が成績を確認できるよう期間を設けた．（教務主事）	B（教）	A		平成29年度は期間と方法を改善されたい。（教務主事）
211	外	1		⑦	本科・専攻科進路の県内・県外割合把握、公開（H25外部評価委員会）																						○	年度別進路状況表（県内・県外が把握できる資料）をホームページへアップした。（学生課）		A	A	
		2 研究や社会連携に関する事項																														
212	Ⅰ	2		①	科研費説明会及びその他の外部予算説明会の開催					○																		高専機構からのテレビ会議利用説明会および学内説明会を実施した。（企画主事）	A（企）	A	A	引き続き、高専機構からのテレビ会議利用説明会および学内説明会を実施する。（企画主事）
213	Ⅰ	2		①	科研費採択数向上対策実施					○									△	△	△	△	△	△	△	△		科研費申請説明会および科研費不採択者の校長裁量経費による支援を実施した。（企画主事） 特になし。（電気） 12人全員申請（12／12）採択（3／12）。（生化） 科研費申請率100%(材料) 取り組んでいる。（文） 科研費の申請率を100%にしていただくよう周知した。（理）	A（企） A(生） A（材） A（文） B（理）	A		引き続き、科研費申請説明会および科研費不採択者の校長裁量経費による支援を実施する（企画主事）。 予定なし（電気） 次年度も全員申請を継続していく。（生化） 採択1件以上を目指す（材料） 継続（文） 次年度も科研費申請率100%を依頼する予定である。（理）
214	Ⅰ	2		①	科研費申請数向上対策実施	△			△	○																△		科研費申請説明会の実施、代表者として申請しない場合の不申請理由書の提出および科研費採択者および代表申請者への予算配分を実施した。（企画主事） 校長裁量経費で科研費不採択研究支援を行った。（総務課）	A（企）	A		引き続き、科研費申請説明会の実施、科研費採択者および代表申請者への予算配分を実施する（企画主事）。
215	Ⅰ	2		①	財団法人等の研究助成金情報のウェブによる周知																					○		27件の公募情報を電子メール等にて周知し、その中から6件を申請中である。（総務課） →　引き続き、メールにより公募に関して周知をしている。	A(総)	A		公募情報を電子メール等で周知する。（総務）
216	Ⅰ	2		①	全国高専フォーラムへの参加								○															8月24～26日に岡山市で開催された「平成28年度全国高専フォーラム」にて生物応用化学科の松山准教授が機構本部　研究・産学連携室からの推薦により「超臨界流体を用いたナノ粒子の 分散・複合化および固定化技術」について紹介・発表を行った（産学民）。	A（産）	A		研究・連携を強化し、共同研究への展開、イノベーションの創出を目指し、次年度も積極的に参加する（産学民）。
217	Ⅰ	2		①	九州沖縄地区高専フォーラム及び高専シンポジウムの開催支援（第1回学科長委員会）	○																						校長及び教員が企画運営に参画している。（教務主事）	A（教）	A		校長及び教員が企画運営に参画予定（教務主事）
218	Ⅰ	2		①	九州沖縄地区高専テクノセンター長等会議への参加								○															12月１日に沖縄で開催予定の「平成28年度（第14回）九州沖縄地区高専テクノセンター長等会議」に中嶌産学民連携テクノセンター長が出席した（産学民）。	A（産）	A		第5ブロック地域の連携を推進する目的で、積極的に参加し、情報交換による連携強化を図る（産学民）。
219	Ⅰ	2		①	高専機構　新技術説明会への参加								○															平成29年2月21日にJST東京本部別館ホールにおいて開催予定の「高専機構新技術説明会」において生物応用化学科の松山准教授が機構本部　研究・産学連携室からの推薦により「超臨界流体を用いた含浸法による ナノ粒子の固定化技術」について紹介・発表を行う予定である（産学民）。	A（産）	A		
220	Ⅰ	2		①	9高専連携事業の推進（第1回学科長委員会）	○																						本制度で受け入れた学生の個人負担を、JASSOの海外留学支援制度(協定受入)に採択されることで軽減（平成27年度から3年連続）した．（教務主事）	A（教）	A		9高専連携事業は終了するが，JASSOの海外留学支援制度(協定受入)を利用して平成29年度もタイからの特別聴講学生を受け入れる予定．（教務主事）
221	Ⅰ	2		②	共同研究・受託研究の受入れ促進								○						△	△	△	△	△	△	△			テクノネット久留米、久留米市並びに久留米リサーチ・パーク等との連携により積極的な共同研究の受け入れを行った。現在のところ今年度のテクノネット久留米会員企業等との共同研究は前年度からの継続を含め3件であり、今年度の受入れ件数は共同研究が17件・受託研究が1件である（産学民）。 特になし。（電気） 技科大、その他大学、企業との共同研究、受託研究実施中。（生化） 大学、企業との共同研究、受託研究実施中。福島高専主宰の「廃炉に関する基盤研究を通じた創造的人材育成プログラム」に参加。（材料） 該当なし。（文） 有明高専との共同研究を検討している。（理）	B（産） A（機） A(生） A（材） B（理）	A	A	テクノネット久留米、久留米市及び久留米リサーチパーク等と連携し、積極的な受託研究、共同研究の受け入れを図る（産学民）。 今年度と同様に実施予定。（機械） 予定なし（電気） 次年度も積極的に受け入れていく。（生化） 従来通りの受入を目指す（材料） 次年度も他高専との共同研究を進める。（理）
222	Ⅰ	2		②	Ａ－STEP研究成果最適展開プログラム制度利用促進								○															Ａ－STEP研究成果最適展開プログラム制度のステージタイプ変更に伴う、新しいプログラムである研究成果展開事業「マッチングプランナー プログラム」について学内に周知・展開を図り、１件採択を受けた（産学民）。	B（産）	A		TV会議システム等による研修会を利用し、学内への周知と案内に努める（産学民）。
223	Ⅰ	2		②	産学民連携テクノセンターの施設利用による研究成果公表								○															産学民連携テクノセンター重点プロジェクト室利用者は、産学民連携テクノセンター報2016において研究成果を公表した（産学民）。	A（産）	A		産学民連携テクノセンター報による研究成果公表に加え、各種イベントでの公表に努める（産学民）。
224	Ⅰ	2		②	テクノセンターの活用による研究環境の充実								○															産学民連携テクノセンター重点プロジェクト室及び地域連携多目的室（小中学生向け公開講座等）の利用により研究環境の充実を図った。特に、重点プロジェクト室は今年度から使用料を無料とし、若手教員が利用しやすい環境とした（産学民）。	A（産）	A		引き続き、産学民連携テクノセンター重点プロジェクト室への若手研究者の活用を推進すると共に、地域連携多目的室の利用により研究環境の充実を図る（産学民）。
225	Ⅰ	2		②	産学民連携テクノセンター報の発刊								○															8月１日に産学民連携テクノセンター報2016を刊行した（産学民）。	A（産）	A		次年度も産学民連携テクノセンター報2017を刊行する（産学民）。

226	Ⅰ	2		②	JSTや経産省九州経済産業局及び地域の公設研究機関との連携推進								○															地域の公設研究機関である久留米リサーチ・パークや産業技術総合研究所九州センターとの連携を強化する。10月に北部九州自動車産業アジア先進拠点推進会議主催の「ふくおか県南地域自動車産業振興フォーラム」、11月に久留米リサーチ・パーク主催の久留米・鳥栖地域産学官テクノ交流会、1月に九州経済産業局主催の「技術開発等支援制度説明会」に参加した。（産学民）	B（産）	A		地域の公設試験研究機関である久留米リサーチパークや産業技術総合研究所九州センターとの連携体制を強化し、各種イベントに積極的に参加する（産学民）。
227	Ⅰ	2		②	産業技術総合研究所及び日本弁理士会九州支部との連携推進				○				○															後期に検討する。（専攻科主事） 日本弁理士会九州支部との連携協定に基づく新しい取組みとして、本校担当弁理士による「知的財産に関する相談会」を隔月にて教員・技術職員に案内のうえ開催し、教職員の知的財産に関する質問等に対応している（産学民）。 11月に開催された「第3回九州沖縄地区高専・日本弁理士会九州支部交流会」に中嶌産学民連携テクノセンター長が出席した（産学民）。	A（産）	A		引き続き、「九州沖縄地区高専・日本弁理士会九州支部交流会」等に積極的に参加するとともに、本校担当弁理士による「知的財産に関する相談会」を教員・技術職員に案内のうえ開催する（産学民）。
228	Ⅰ	2		②	産学民連携コーディネーターの配置検討								○															現在検討中である。（産学民）	C（産）	C		
229	Ⅰ	2		②	知的財産活用フォーラムへの参加								○															今年度については、現在のところ開催は予定されていない（産学民）。	C（産）	C		
230	Ⅰ	2		②	久留米商工会議所、久留米リサーチパーク、地域銀行などのイベント参加								○															10月5日に開催された筑邦銀行主催のビジネスセミナー＆交流会に参加し、各種団体のと交流を行った（産学民）。 11月8日に開催された久留米リサーチ・パーク主催の「久留米・鳥栖地域産学官テクノ交流会」に参加し、産学民連携テクノセンターとしてブース展示を行った（産学民）。	A（産）	A		ブース展示等による出展で本校産学民連携活動を紹介すると共に、久留米商工会議所との連携に関わるイベントに積極的に参加する（産学民）。
231	Ⅰ	2		②	全国レベルの展示会への出展を通じた産学連携活動のアピール								○						△	△	△	△	△	△	△			8月24～26日に開催された全国高専フォーラム（岡山市）及び8月25～26日に開催されたイノベーションジャパン2016大学見本市（東京）に参加し、産学連携に関する情報収集並びに人的ネットワークの拡充に努めた。また、2月21日に開催される高専機構新技術説明会（東京）にも参加する予定である（産学民）。 該当なし。（電気） 8月25～26日に開催されたJST主催イノベーションジャパン2016大学見本市（東京）に出展した。（生化） 該当なし。（材料） 該当なし。（文）	A（産） A(生） D（材）	A		全国高専フォーラムやイノベーションジャパン等全国規模のイベントに出展し、産学連携に関する情報収集と人的ネットワークの拡充に努める（産学民）。 予定なし（電気） 最近生物応用化学科の出展が続いているので，来年は生物応用化学科以外の出展が望ましい。（生化） 機会があれば積極的に参加する（材料）
232	Ⅰ	2		②	「テクノネット久留米」（技術振興会）と連携した活動の推進								○															テクノネット久留米会員企業等の業務内容・会社概要を掲載した冊子「テクノネット久留米会員紹介ブック2016」を作成・発行した（産学民）。 10月28日にテクノネット久留米定時総会及び講演会・交流会を開催し、会員企業との連携促進を図った（産学民）。	A（産）	A		本校と地域産業界との連携・交流を深めることにより地域産業の発展に寄与すると共に、教育研究の振興を深める目的でテクノネット久留米との連携を強化する。その一環として昨年度と同様「テクノネット久留米会員紹介ブック」を作成する（産学民）。
233	Ⅰ	2		②	日本歯車工業会JGMAギヤカレッジへの参画														○									8/4（木）、8/5（金）に日本歯車工業会JGMAギヤカレッジの基礎実習を行った。（機械）	A（機）	A		今年度と同様に実施予定。（機械）
234	Ⅰ	2		②	ゴムの実践技術講座の実施																	○						一般社団法人日本ゴム協会九州支部と締結した連携・協力協定にかかる事業の一つとして、平成28年8月23日（火）から8月26日（金）の4日間、「第4回ゴムの実践技術講座（実習）」を開催した.（生化）	A(生）	A		次年度も実施していく。（生化）
235	Ⅰ	2		②	腐食防食技術研修会の実施																	○	○					平成28年7月8日に一般社団法人日本ゴム協会九州支部との間で連携・協力に関する協定調印式を行い、協定を締結した。この協定は、久留米高専と日本ゴム協会九州支部が地域ゴム産業の振興発展及び工業人材育成に寄与することを目的としたもので、主な連携事項として①ゴム技術者の人材育成に関すること、②地域ゴム企業に対する技術支援に関すること、③産学連携交流促進に関することを掲げている。（生化） 講師として参加・協力（材料）	A（材）	A		従来通りの参加・協力を行う（材料）
236	Ⅰ	2		②	日本歯車工業会，日本ゴム協会九州支部，久留米商工会議所等との協力協定締結（第1回学科長委員会）								○						○			○	○			○		5月20日に日本歯車工業会、7月8日に日本ゴム協会九州支部、12月21日に久留米商工会議所とそれぞれ協力協定を締結した（産学民）。 5/20（金）に日本歯車工業会と連携・協力協定を締結した。（機械） 要望があれば対応していく（材料）	A（産） A（機） A（材）	A		予定なし（産学民）。 締結を機に発展的に継続予定。（機械） 要望があれば対応していく。（生化） 方針の変更なし（材料）
237	Ⅰ	2		③	研究における技術科学大学との多様な連携の可能性検討	○			○										△	△	△	△	△	△	△			前期、未検討。後期に可能性検討する。（専攻科主事） 学科としては検討していない。（電気） 豊橋技科大との平成27年度高専連携教育研究プロジェクト（採択課題「ナノ物質の集積化技術を活用した機能性材料・デバイス開発」）に採択された。（生化） 三機関連携事業への参画（材料） 該当なし。（文）	A(生） A（材）	A	A	予定なし（電気） 今後も継続していく。（生化） 三機関連携事業へ参画を継続（材料）
238	Ⅰ	2		③	地域企業との共同研究を通じた学生の共同教育プログラム実施方法検討				○				○															専攻科１年の産業デザイン演習では、商品デザイン企画提案・プレゼンテーション評価に地域企業・公設機関関係者に参加してもらっている（産学民）。	B（産）	A		予定なし（産学民）。
239	Ⅰ	2		③	知的財産管理システムを利用した知的財産の有効かつ効率的活用								○															本校における知的財産の活用を目指し、九州沖縄地区高専担当コーディネーターに知財に関する相談を随時行っている。また、日本弁理士会九州支部との連携強化、テクノネット久留米を活用した産学連携を推進し、有効かつ効率的な知財活用のあり方を検討した。教職員対象の担当弁理士による「知的財産に関する相談会」を隔月にて教員・技術職員に案内のうえ開催し、教職員の知的財産に関する質問等に対応している（産学民）。	A（産）	A		引き続き、知的財産管理システムを利用し、日本弁理士会九州支部との連携を強化し、テクノネット久留米を活用した産学連携等を推進する。また、本校教職員対象の担当弁理士による「知的財産に関する相談会」を引き続き開催し、教職員の知的財産に関する質問等に対応する（産学民）。
240	Ⅰ	2		③	知財申請に関する講習会の開催								○															９月５日に開催された「平成28年度国立高等専門学校機構　知財研修会」を中嶌産学民連携テクノセンター長が受講した（産学民）。	B（産）	A		機構主催の知的財産研修会を積極的に受講すると共に、本校教職員に対する講習会の開催も検討する（産学民）。
241	Ⅰ	2		③	知財申請に関する各種イベントへの積極的参加の促進								○															11月30日開催の「第3回九州沖縄地区高専・日本弁理士会九州支部交流会」に参加した。（産学民）。	A（産）	A		次年度も知財申請に関する各種イベントに積極的に参加する（産学民）。
242	Ⅰ	2		④	紀要の発行						○																	これまで冊子体で発行していたが、今年度から電子ファイルで年１回発行することとした。また、投稿規定等について見直し等を行い、必要に応じて内容改正等を行った。（図）	A（図）	A	A	次年度も継続する。（図書館）
243	Ⅰ	2		④	教育研究活動等の状況とその成果の社会に対する公表								○						△	△	△	△	△	△	△			教育研究活動の対外的公表の機会として、地域企業との交流機関である「テクノネット久留米」の定時総会及び講演会・交流会を10月28日に開催した。また、本校の教育内容の成果公表として新聞等のメディアでの情報公開を行っている（産学民）。 学会参加を奨励しており、既に複数名が発表している。（電気） 学会（日本化学会，高分子学会，生物工学会，農芸化学会，化学工学会他）へ積極的に参加している。（生化） 学会（金属学会、鉄鋼協会、鋳造工学会、他）への積極的参加を行っている（材料） 各教員が研究を進め、学会発表や論文執筆によって研究成果を社会に公表している。（文） 学会発表、論文発表に取り組んだ。市民講座において研究成果を広めた。（理）	A（産） A（電） A(生） A（材） A（文） A（理）	A		「テクノネット久留米定時総会」で成果報告をすると共に、新聞等メディアによる教育内容の成果公表を随時行う（産学民）。 例年通り対応予定。（電気） 今後も対外発表を継続していく。（生化） 方針の変更なし（材料） 継続（文） 今後も、学会発表や市民講座等を通して、教育研究活動等の状況とその成果の社会に対する公表を続ける。（理）
244	Ⅰ	2		④	地域の産業界に対するHPを活用した情報発信								○															産学民連携テクノセンターのWEBページでは、本校の産学民連携活動の情報公開を随時更新している（産学民）。	B（産）	A		産学民連携テクノセンターのWEBページにより本校の産学民連携活動の情報公開を行う（産学民）。
245	Ⅰ	2		④	各種フォーラムなどへの参加促進								○															８月24～26日に開催された全国高専フォーラム（岡山市）や８月25～26日に開催されたイノベーションジャパン2016大学見本市（東京）に参加し、産学連携に関する情報収集並びに人的ネットワークの拡充に努めた（産学民）。 相談室員(室長、看護師を含む)は、年に数度、外部にて開催される各種勉強会に参加し、必要な情報の収集にいそしんでいる。（相談）。	A（産）	A		全国高専フォーラムやイノベーションジャパン等へのイベント参加を積極的に行う（産学民）。

246	Ⅰ	2	④	ウェブページの更新	△	△	△	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	新入寮生対面式、寮避難訓練、寮祭、ヘルスチェックキャンペーン、テーブルマナー講習会など寮生活の様子を本校HPに掲載した。後期においては、料理教室、寮祭、寮成人式などの模様を掲載した。(寮務主事) 本校トップページおよび学科セカンドｰページの更新について第1回企画委員会で依頼した．電気電子工学科の英語名変更により，トップページのelectronicsをelectronicに修正した．11月30日に全教職員に更新の依頼メールを送信した．(企画主事) 図書館HPにおいて新着図書、図書館だより、紀要等図書館に関する情報を随時更新している。(図) 相談室だよりに代わって多めの更新を行う予定だったが、最低限の更新のみとなった。(相談) 就職に関する最新のデーター(就職主任一覧及び就職先企業名等)を公開している。(就職主任) 産学民連携テクノセンターのWEBページでは、本校の産学民連携活動の情報公開を随時更新している(産学民)。 Wordpressとそのプラグインを最新のバージョンにした。Wordpressへのアクセス権限を見直し、IPアクセス制限を実施した。情報セキュリティ技術の向上により、Wordpressの脆弱性を発見し、それに対応した。(総合) 本校トップページおよび学科セカンドｰページの更新について第1回企画委員会で依頼した．電気電子工学科の英語名変更により，トップページのelectronicsをelectronicに修正した．(授業) 公開講座等の情報を新着情報としてアップするほか、中学生向けのページを整備した。(電気) 学科ホームページのH27年度末に改定を実施した。(生化) 適宜更新を行っている。新たに動画を学科名称変更に関連する資料を公開した。(材料) 随時更新している。(文) 7月に一般理科ウェブページの更新を行った。(理) 様々な行事及び学生の表彰等については、随時更新している。(総務課、学生課)	A(寮) A(企) A(図) A(総) B(産) B(相) B(就) A(電) A(生) A(材) B(文) A(理)	A		引き続き寮生活の模様を本校HPにおいて掲載、紹介し、入寮生増につなげる。(寮務主事) トップページの写真の更新および学内教職員に年に2回の更新依頼を行う．(企画主事) 次年度も継続する。(図書館) 引き続きWordpressとそのプラグインを最新のバージョンにすること等でWordpressの脆弱性に対応し、情報セキュリティの向上を図る。新規導入高専統一ネットワークでは、ウェブサーバは共通サービスとして機構本部から提供されないため、平成30年度以降の本校ウェブサーバについて検討する。(総合) 産学民連携テクノセンターのWEBページで、本校の産学民連携活動の情報公開を随時更新する(産学民)。 相談室だよりと同等の内容をウェブページにて発信していく。周知にはカウンセラーのカウンセリングスケジュールのポスターや、名刺サイズのカードなどを用いて行っていく。(相談) 次年度から『キャリア支援室』を設立予定であり、就職及び進学に関しての対外的ページはその内容や体裁を含めて、ゼロベースで検討予定。また教職員及び学生に対する学内限定のページも同様に内容や体裁をゼロベースで検討し、より使いやすく情報の多いページに変更予定。一例として既卒者に対する求人も公表予定(就職主任) HPの充実・更新を行う。(電気) 今後専攻科関連のHPを充実していく。(生化) 学科名称変更にあわせて、ホームページの大幅な更新を検討する。(材料) 継続(文) 次年度も一般理科ウェブページの更新を行う。(理)
247	Ⅰ	2	⑤	「仕上げ作業実技講習会」や「3D-CAD関連講座」などの社会人向け公開講座の開催										○				○									仕上げ作業実技講習会(4月～7月間に6回)、3D-CAD公開講座(基礎講座、8/23、24)、3D-CAD公開講座(CAE講座、9/27、28)を開催した。(機械)	A(機)	A	A	今年度と同様に実施予定。(機械)
248	Ⅰ	2	⑤	高等教育コンソーシアム久留米のサテライトキャンパスの活用								○															高等教育コンソーシアム久留米を介して単位互換協定校(久留米大学・久留米工業大学・聖マリア学院大学・久留米信愛女子短期大学)との外部単位取得を推進している。後期には単位互換共同講義を専攻科一般特論あるいは先端工学特論対象講義の一部科目として実施する予定である。さらに、「レジリエンスの基盤としての防災・減災教育」をテーマとして市民公開講座を12月10日に開講した(産学民)。	A(産)	A		高等教育コンソーシアム久留米を介して単位互換協定校(久留米大学・久留米工業大学・聖マリア学院大学・久留米信愛女子短期大学)との外部単位取得を推進する。単位互換共同講義を専攻科一般特論あるいは先端工学特論対象講義の一部科目として実施し、さらに市民公開講座も開講する(産学民)。
249	Ⅰ	2	⑤	小学校理科教育支援・出前授業等の実施								○						△	△	△	△	△	△	△			7月27日に小郡市・三井郡が主催する理科実験・実技講習会に講師を派遣し、学習指導要領で示された理科の学習内容について小学校教員を対象に実技指導を行った(産学民)。文部科学省「土曜学習応援団」についても参画することにより引き続き小中学校を対象とした「土曜日の教育活動推進プロジェクト」への推進を図る(産学民)。 1名の教員が高等教育コンソーシアム久留米小中高連携部会長として実施。宗像市で行われたサイエンスイベント(世界一行きたい科学広場in宗像)に参加、福岡県青少年科学館(久留米市)におけるサイエンスイベントを企画している。さらに、久留米市内の小中高大および各民間企業や各種団体等を横断した理科教育連携ネットワークを本年度後期に立ち上げの予定。(電気) Ⅰ1(1)②小中学生を対象とした公開講座の実施に同じ。(生化) 鳥栖市内小学校への理科教育のため出前授業実施(材料) 該当なし。(文) 11月13日に熊本県益城町にて出前授業を実施した。(理)	B(産) A(電) A(生) A(材) D(文) C(理)	A		久留米市等が主催する理科実験・実技講習会や小学校教員を対象とした実技指導等に講師を派遣して積極的に対応する(産学民)。また、文部科学省「土曜学習応援団」についても引き続き参画することにより小中学校を対象とした「土曜日の教育活動推進プロジェクト」への推進を図る(産学民)。 関係者が対応予定(電気) 次年度も継続していく。(生化) 方針の変更なし(材料) 小学校の理数教育支援等に今後も積極的に関わる。演示実験や体験授業を中心として依頼に合った内容の出前授業の実施に協力していきたいと考えているが、教員に時間的余裕がなく積極的に取り組むことができない。(理)
250	Ⅰ	2	⑤	佐賀県内小中学校への出前授業の推進								○						△	△	△	△	△	△	△			文部科学省「土曜学習応援団」への学校登録を行い、小中学校を対象とした「土曜日の教育活動推進プロジェクト」への推進を図る(産学民)。 9月に鳥栖中学において出前授業を実施予定。(電気) 該当なし。(生化) 鳥栖市内小学校への理科教育のため出前授業実施(材料) 該当なし。(文)	C(産) A(電) A(材) C(理)	A		引き続き文部科学省「土曜学習応援団」への学校登録を行い、小中学校を対象とした「土曜日の教育活動推進プロジェクト」への推進を図る(産学民)。 関係者が対応予定(電気) 今後佐賀県内の中学校に出前授業を通じて受験倍率アップの方策を検討していく。(生化) 方針の変更なし(材料) 演示実験や体験授業を中心として依頼に合った内容の出前授業の実施に協力していきたいと考えているが、教員に時間的余裕がなく積極的に取り組むことができない。(理)
251	Ⅰ	2	⑤	九州沖縄地区高専の科学技術支援の連携活動への参画										○													9/15、9/16に長崎大学で開催された機械加工技術研修及びガラス細工技術研修会に各々1名が参加した。(支援室長)		A		
252	Ⅰ	2	⑤	高等教育コンソーシアム久留米の「小中高連携部会」への参画								○															高等教育コンソーシアム久留米の「小中高連携部会」に参画し、コンソーシアムが今年度採択を受けた(公財)中谷医工計測技術振興財団の科学教育振興プログラムによる支援を得て、福岡県青少年科学館において青少年のための理科イベント「サイエンスモールinくるめ2016」を開催した(産学民)。	A(産)	A		高等教育コンソーシアム久留米の「小中高連携部会」に参画し、理科イベント等に積極的に参加する(産学民)。
253	Ⅰ	2	⑤	久留米マナビイランドへの参画								○						△	△	△	△	△	△	△			11月13日開催のマナビイランド(久留米生涯学習推進市民協会主催)に6学科等でふれあい理工学展を出展した(産学民)。 ふれあい理工学展へ参加する。(機械) ふれあい理工学展に参加した。(電気) ふれあい理工学展へ参加する。(生化) ふれあい理工学展への参加予定(材料) 該当なし。(文) 「ふれあい理工学展」に参加した。(理)	A(産) A(電) A(生) A(材) A(理)	A		次年度も引き続きマナビイランド(久留米生涯学習推進市民協会主催)に6学科等でふれあい理工学展を出展する(産学民)。 例年通り対応予定。(電気) 次年度も継続していく。(生化) 方針の変更なし(材料) 依頼があれば、次年度もふれあい理工学展に協力する。(理)
254	Ⅰ	2	⑤	オープンデータ・デーin久留米への参画								○															3月5日に開催された「オープンデータ・デイ2016in久留米」に産学民連携テクノセンター黒木部門マネージャーが参加した。また、「Civic Tech Forum＠九州2016」にも同部門マネージャーが参加した(産学民)	A(産)	A		予定なし(産学民)。
255	Ⅰ	2	⑥	同窓会と連携した卒業生のネットワーク作り促進	○																						校長および本校の同窓会評議員が支部の総会(北九州、東海、福岡、関東、関西、宮崎)へ出席した．また、例年通り卒業・修了予定者に卒業後の連絡先と各クラスの代表者を同窓会へ提出してもらった．(教務主事)	A(教)	A	A	これまで通り行う。(教務主事)
		3 国際交流等に関する事項																													
256	Ⅰ	3	①	熊本高専主催のシンガポールのポリテクでの英語研修への学生派遣検討	○																						参加者なし．(教務主事)	C(教)	C	A	継続されれば担任会、掲示で周知し学生を派遣する。(教務主事)
257	Ⅰ	3	①	海外の教育機関との国際交流に関する調査実施	○				○																		機構が主催する「平成28年度　全国国立高等専門学校　国際交流室・国際交流センター長会議」に黒木准教授が出席した．9月末に実施される「平成28年度国際交流関係教職員スキルアップワークショップ」に萩原講師が出席した．(企画主事)	A(企)	A		引き続き実施する。(企画主事)
258	Ⅰ	3	①	キングモンクット工科大学4+1プログラム協定の締結(第1回学科長委員会)				○	○																○		検討継続中。(専攻科主事) 文科省の確認を受け，年度内にKMITLに訪問し，調印式を行う予定である．(企画主事)	A(企)	A		本年度で終了予定。(企画主事)
259	Ⅰ	3	①	国際交流部会設置によるグローバル人材育成教育推進の検討(第1回学科長委員会)					○																○		企画委員会で検討している校内組織改革に合わせ，次年度に国際交流委員会を設置する．(企画主事)	A(企)	A		本年度で終了予定。(企画主事)
260	Ⅰ	3	①	本校主催学生海外派遣事業(インターンシップ等)実施の検討(第8回学科長委員会)	○			○																			事故により再開の目処が立っていない本校主催の学生海外派遣事業再開について，教務委員会で意見を聞いたが前に進めることはできなかった．	C(教)	B		引き続き検討を続ける．(教務主事)
261	Ⅰ	3	①	国際交流の推進(海外大学等との交流、教育・技術支援、協定締結)	○			○	○																		特別聴講生としてナンヤンポリテク(シンガポール)6名，カセサート(タイ)2名，キングモンクット大ラカバン校(タイ)11名を受け入れた．滞在期間は2か月程度であった．(教務主事) JSTS、ISTSに1年生1名参加。(専攻科主事) タイの大学およびシンガポールのポリテクから前期にそれぞれ7名，3名の学生を受け入れた．後期にまた，それぞれ6名と3名を受け入れた．また，タイから外国人研究生を1名9月4日より1年間受け入れた．機構の平成28年短期留学受入支援プログラムに申請し，採択された．JASSOの平成29年度海外留学支援制度(協定受入)にタイとシンガポールの2プログラムを申請し，タイの方(10名×2か月)が採択された．シンガポールの方は不採択(追加採択対象B)であった．ハノイ大学における英語での研究発表会に学生3名と教員1名が，マレーシアでの第1回UTP-KOSENシンポジウムに学生2名，教員3名が参加した．(企画主事)	A(教) A(企)	A		9高専連携事業は終了したが，JASSOの海外留学支援制度(協定受入)では平成27年度から3年連続で採択され、平成29年度もタイからの特別聴講学生を受け入れる予定となっている．(教務主事) JASSOが採択案件の実施やシンガポールのナンヤンポリテクとは調整を含め、引き続き実施する。(企画主事)
262	Ⅰ	3	①	機構主催海外インターンシップへの応募				○																			前期希望者なし。学年歴を整合することの検討。(専攻科主事)		D		
263	Ⅰ	3	①	九州地区9高専連携共同教育推進事業海外インターンシップへの参加	○																						参加者なし．(教務主事)	C(教)	C		9高専連携事業は終了する．(教務主事)

264	Ⅰ	3	②	外国人学生対象の3年次編入学試験への参加	○																						本校の5学科はいずれも募集人員を若干名として外国人学生対象の3年次編入学試験へ参加している．平成28年4月には，3名の留学生を3年生へ迎えた．(教務主事)	A(教)	A	A	機構の仕組みに従って実施する．(教務主事)
265	Ⅰ	3	②	留学生指導に関するセミナーへの職員派遣	○																						募集なし．(教務主事)	／	／		案内があれば参加を検討する．(教務主事)
266	Ⅰ	3	③	九州沖縄地区高専留学生交流研修会への参加	○																						10月15･16日に開催の九州沖縄地区高専留学生交流研修会に外国人留学生10名の内7名が参加した。(教務主事)	A(教)	A	A	外国人留学生の横のつながりを作る．(教務主事)
267	Ⅰ	3	③	外国人留学生に対する学習･生活面の支援（Ⅰ1(5)⑤再掲）	○		○											○	○	○	○	○					平成29年度より日本事情を日本語･日本事情に変更し本校国語教員の担当とすることにした．(教務主事) 留学生のみを対象とした日本語の授業（年間60時間）を実施した．(教務主事) 留学生には該当クラスの寮生から日本人チューターを選び、学習や生活面の相談･支援にあたっている。さらに、寮務主事室と寮生活支援係が適宜支援している。寮生会による寮祭や異文化交流会も開催し、留学生と寮生間の親睦を深めた。女子寮では寮母による女子留学生との交流も図られている。後期には冬の寮祭を実施し，ボーリングや餅つき、BBQによる寮生相互の交流を図った。(寮務主事) クラス担任を中心に行っている。(機械) 3年生担任を主に実施。4年生留学生については、日本語読解力不足の懸念があるため、担任が対応した。(電気) 該当なし。(制御) 本科3年アウリキと4年クリスの相談員と担任で支援。アウリキに対しては，生物応用化学基礎の科目で，低学年の復習を8人の教員で連携して教授し，合わせて日本語の会話と文書作成を指導。(生化) 担任、研究室担当教員を主体に支援を行っている(材料)	A(寮) A(機) A(電) A(生) A(材)	A		引き続き，留学生のみを対象とした日本語の授業（年間60時間）を実施する．(教務主事) 次年度入寮予定の3名の留学生を加えて，従来通りの学習･生活面での支援を行う。また国際交流事業で来校する短期留学生に対しては，宿所の提供を中心にサポートを継続する。(寮務主事) 今年度と同様に実施予定。(機械) 例年通り対応予定。(電気) 次年度も継続していく。(生化) 方針の変更なし(材料)
	4	管理運営に関する事項																													
268	Ⅰ	4	①	学校の管理運営の在り方についての検討、見直し	○				○																		校長を先頭に学校としての迅速な意思決定がなされる運営組織に平成29年度より移行する．(教務主事) 企画委員会を中心に、①問題解決の体制強化 ②意思決定プロセスの透明化 ③業務負荷軽減を図るために、全委員会の構成および役職数の見直しを主とした校内組織改革を取りまとめた。また、その内容に関する規則等の改定を3月の学科長委員会で確定させ、次年度から適用する予定である。(企画主事)	A(教) A(企)	A	A	組織改革が行われる．(教務主事) 本年度取りまとめた校内組織改革を実行し、その問題点等を整理し、必要に応じた検討を行う。(企画主事)
269	外	4	①	上記と合わせた繁忙化対策の検討	○				○																		90分授業とする新しい校時が9月の学科長委員会で承認され，平成29年度より実施する．(教務主事) 企画委員会を中心に、①問題解決の体制強化 ②意思決定プロセスの透明化 ③業務負荷軽減を図るために、全委員会の構成および役職数の見直しを主とした校内組織改革を取りまとめた。また、その内容に関する規則等の改定を3月の学科長委員会で確定させ、次年度から適用する予定である。(企画主事)	A(教) A(企)	A		本年度取りまとめた校内組織改革を実行し、その問題点等を整理し、必要に応じた検討を行う。(企画主事)
270	Ⅰ	4	①	水曜午後の非常勤・短時間再雇用教員による時間割編成（会議並列開催のため）	○			△										△	△	△	△	△	△	△		○	非常勤講師へ水曜午後の担当を依頼したが可能との回答は4名であった．(教務主事) 非常勤講師への問合せは行った。(電気)	A(教) B(電)	A		徐々に数を増やしていく．(教務主事) 学校マター(電気) 次年度の非常勤には協力をお願いしていく。(生化)
271	Ⅰ	4	①	障害を理由とする差別に関する相談体制の整備（第3回学科長委員会）	○	○	○						○														平成28年7月の学科長委員会で，「久留米工業高等専門学校特別支援教育委員会規程」を制定した．(教務主事) 現在、担任を中心とし、支援チームを組織し取り組んでいる事案があります。(学生主事) 平成28年度第4回寮務委員会において、特別支援教育連絡会議に関して審議を行い、相談体制の整備を図った。(寮務主事) 組織体制の整備を教務主事を中心として取り組んだ。また、FD会議において現在取り組んでいる事例について情報共有を行った。(相談)	A(教) A(相)	A		新1年生への健康調査，在校生保護者への委員会設置を通知（学年成績に同封）に対する申し出をもとに対応する．(教務主事) 整備された内容を元に取り組んでいく(相談)
272	Ⅰ	4	①	リサーチアワーや研修日を確保するための時間割検討	○																					△	制約条件の多い中時間割を作成している．(教務主事)	B(教)	A		制約条件の多い中可能な限り要望に応える。(教務主事)
273	Ⅰ	4	①	学会加盟費の校費支出実施	△																				○		平成28年度から学会加盟費を公費より支出可能とした。(総務課)	A(総)	A		
274	Ⅰ	4	①	90分授業の導入検討	○																					△	平成28年9月の学科長委員会で，授業時間を90分とする校時が承認され，平成29年度より実施する．(教務主事)	A(教)	A		平成29年度より実施(教務主事)
275	Ⅰ	4	①	会議の構成員及び開催回数の調査					○																○	○	昨年度の実績を調査し、過去2年間との比較を行っている。9月の主事会議および学科長委員会で状況を報告した。(企画主事) 平成27年度に開催した委員会の構成委員数及び開催回数を調査し、主事会議に報告した。また、本来廃止すべき未廃止の委員会を廃止した。(総務課)	A(企)	A		組織改革を踏まえ、本年度との比較調査を行い、関連委員会で報告する等により組織運営に資する取り組みを行う。(企画主事) 校内組織改革に基づいた会議運営が行われる、次年度も会議開催回数の調査を実施し、前年度と比較する。(総務)
276	Ⅰ	4	①	機構主催「管理職研修」への参加	○																						平成28年度は寮務主事と一般文科学科長が参加した．(教務主事)	A(教)	A		毎年実施されている．(教務主事)
277	Ⅰ	4	①	教員兼業ガイドラインの策定検討	○																				△		作成できなかった．(教務主事)	D(教)	D		作成されたい．(教務主事)
278	Ⅰ	4	②	一般管理費削減のための業務運営の見直し																					○		学生寮の日直業務と校内警備業務を同一契約（入札）とし、経費削減を図った。(総務課)	A(総)	A	A	
279	Ⅰ	4	②	非常勤講師及び非常勤職員費用の減額の検討（第1回学科長委員会）	○													△	△	△	△	△	△	△		△	非常勤講師1名減とした。(電気) JNC株式会社から「安全工学」の講師を謝礼，交通費無しで派遣してもらっている。(生化) 欠員教員分の授業を、既存の教員間で分担して非常勤講師を削減した。(材料) 検討していない。(文)	A(電) A(生) A(材)	A		次年度も削減予定。(電気) 次年度は，人事交流により非常勤が増える予定。(生化) 新任教員の配置により非常勤講師を1名減にする(材料)
280	Ⅰ	4	②	事務処理方法の見直し、検討																					○		総務課各係の業務内容を総点検し、久留米工業高等専門学校事務組織及び事務分掌規則を改正した。(総務課) 個人保管庫（事務職員個人専用ハード）を廃止し、不要な保存データの整理を行った。(総務課)	A(総)	A		事務分掌に関して引き続き確認を行う。(総務)
281	Ⅰ	4	②	定期試験答案等10年間保管方法検討	○																				○	○	平成28年9月の学科長委員会の承認をうけて実施する．文書作成後2年間は、各学科、教務係において、現物又は電子データでの保存を実施予定(教務主事)	A(教)	A		電子的保管の安全性確保の方法を再考する．(教務主事)
282	Ⅰ	4	③	機構本部作成コンプライアンス・マニュアル等を活用した教職員コンプライアンス向上																					○		教職員を3グループに分けてコンプライアンス教育（公的研究費使用マニュアルの説明等）を実施（教員：5月18日開催の第1回教員会議、技術職員：6月6日開催の教育研究支援室連絡会議、事務職員：12月20日開催の会計監査人による地区別研修）するとともに、コンプライアンスに関するセルフチェック及びアンケートで研究者倫理教育を実施した。(総務課)	A(総)	A	A	引き続き、教職員に対するコンプライアンス教育を実施する。(総務課)
283	Ⅰ	4	③	危機管理規程に基づく、危機発生の事前防止	○																						9月初めの台風の接近、1月のインフルエンザに対し，リスク管理室会議を開いて対応を決定し，実行した．(教務主事)	A(教)	A		正確な情報取集を校長先生から指示された．(教務主事)
284	認	4	③	△危機管理マニュアルの作成	○																				○		機構マニュアルを基に本校マニュアルを作成する。(総務課) →　事務担当者レベルでマニュアル（案）検討を行っており、次年度に策定する予定としている。	C(総)	C		マニュアルを次年度に策定する予定としている。
285	Ⅰ	4	③	緊急連絡体制の見直し（第1回リスク管理室会議）																					○		危機管理マニュアルに応じ、見直しを行う予定である。(総務課) →　情報インシデントに対する緊急連絡体制を追加した。引き続き、必要に応じて検討を行う予定である。（1月26日学科長委員会）	B(総)	A		上記、マニュアルの策定に基づき、緊急連絡体制の構成を検討を行う。
286	Ⅰ	4	③	メールによる安否確認体制の整備検討（第1回リスク管理室会議）	○	○																			○	○	教務係において比較検討を行い候補を選定して1クラスで試用中。(教務主事) 平成29年導入予定。(学生主事)	B(教) A(学)	A		本格運用する．(教務主事)
287	Ⅰ	4	③	水害時の避難訓練検討（第1回リスク管理室会議）																					○		危機管理マニュアルに応じ、避難訓練を行う予定である。(総務課) →　水害時の避難訓練は今年度実施していない。 有事の際のフローを検討する必要がある。マニュアル類の整備が先に必要である。	D(総)	D		リスク管理室委員会において避難訓練のマニュアル化を行う。

288	Ⅰ	4	③	リスク管理室委員長の校長への変更（第1回リスク管理室会議）	○																				○		平成29年度より組織変更を行う．平成28年度中は校長陪席で開催している．（教務主事） リスク管理室委員会を次年度より立ち上げ、校長を委員長として委員会運営等を行う。（総務課）	A（教） A（総）	A		校長がリスク管理室委員長となる。．（教務主事） 実施済み（総務）
289	Ⅰ	4	③	各種設備・機器の取扱説明書に基づく使用状況の確認（第1回リスク管理室会議）	○													○	○	○	○	○	○	○	○		取扱説明書に基づき使用している。（機械） 該当なし。（制御） ドラフトの使用基準を安全工学の授業で確認した。（生化） 設備事故に対する報告書を作成し、学科内で情報共有を行い注意喚起を行った。（材料） 適正な使用を確認している。（文）	A（機） A（電） A(生） A（材） B（文）	A		今年度と同様に実施予定。（機械） 例年通り対応予定。（電気） 方針の変更なし（材料） 継続（文）
	Ⅰ	4	③	学生事件・事故の管理体制の整備およびテーブル訓練実施（H28.10.28 機構依頼）	○	○	○																			○	11月の主事会議で実施した。（教務主事） 1月に実施しました。（学生主事）	A（教） A(学）	A		引き続き実施する．（教務主事） 今年度同様実施予定。（学生主事）
290	Ⅰ	4	③	輸出管理内部規程導入検討								△													○		現在検討中である（産学民）。	D（産）	D		検討中である（産学民）。
291	Ⅰ	4	④	内部監査項目に沿った適切な体制の見直し																					○		これまでの指摘事項等を踏まえ、事務処理体制を不断に見直している。（総務課）	A（総）	A	A	内部監査等における主な指摘事項・不適切事例・講評事項等と照らし合わせ本校の体制を確認する。（総務課）
292	Ⅰ	4	④	校内監査の適切な運用																					○		機構会計規則及び久留米工業高等専門学校会計監査実施規則に基づき、内部監査を実施した。（総務課）	A（総）	A		機構会計規則及び久留米工業高等専門学校会計監査実施規則に基づき、適切な時期に校内監査を行う。（総務課）
293	Ⅰ	4	⑤	研究費不正防止に関する意識啓発（セルフチェックリスト、科研費説明会、会議等）																					○		平成28年度採用・異動等により本校に着任した教職員に対し、公的研究費使用マニュアルに基づき説明を行った。（総務課） 事務職員11名が会計監査人による地区別研修会（TV会議）を聴講した。（総務課）	A（総）	A	A	機構開催の各種研修会等（TV会議）を公開し、研究費不正防止に関する意識啓発を図る。（総務課）
294	Ⅰ	4	⑤	公的研究費のガイドラインに沿った運用																					○		文部科学省公的研究費に関するガイドラインの運用を受け、機構が整備した公的研究費等の運営・管理体制及び規則等に基づき、久留米高専でマニュアルを作成し運用している。（総務課）	A（総）	A		公的研究費使用マニュアル（久留米高専）を更新し、規則変更等に対応できる環境を整備する。（総務課）
295	Ⅰ	4	⑥	事務職員や技術職員の研修会参加										△											○		職員の資質向上のため各種研修会に職員の参加を促した。平成28年度は延べ25名が参加し、うち1名は財務省研修（90日間）を修了した。（総務課）	A（総）	A	A	平成28年度に引き続き各種研修会への職員の参加を促す。（総務課）
296	Ⅰ	4	⑥	事務職員や技術職員の表彰推薦実施										△											○		学内表彰「功労賞」については後期に推薦募集を行う。高専機構職員表彰については技術職員1名を推薦している。（総務課）	A（総）	A		平成28年度に引き続き表彰対象者の推薦を行う。（総務課）
297	Ⅰ	4	⑦	国立大学法人や国立高等専門学校間での事務職員の人事交流推進																					○		今年度は、国立大学から新たに4名の人事交流者を受け入れ、高専機構本部へ1名派遣している。（総務課）	A（総）	A	A	職員の希望を身上調書で確認し、人事交流の推進を図る。（総務課）
298	Ⅰ	4	⑧	IT資産管理システムによるソフトウェア管理の実施							○																現在IT資産管理システムによるソフトウェア管理を行っている。平成28年12月にIT資産管理システムの変更が予定されており、対応する予定である。また、平成28年12月から平成29年3月にかけてソフトウェア管理規則に基づく検査を実施し、その結果を機構本部へ報告する予定である。（総合）	A（総）	A	A	IT資産管理システムを用いて、IT資産を適切に管理する。ソフトウェア管理規則に基づく検査を実施し、その結果を機構本部へ報告する。（総合）
299	Ⅰ	4	⑧	情報セキュリティ対策の機構取組に即した整備	△						○																情報格付規則の改正やクラウド化に向けてのガイドラインの制定なども含め、セキュリティに関する規則，手順全般を機構が見直しているため、その結果を待っている状態であり、その結果に即して整備する。（総合）	A（総）	A		情報格付規則の改正やクラウド化に向けてのガイドラインの制定なども含め、セキュリティに関する規則，手順全般を機構が見直しているため、その結果を待っている状態であり、その結果に即して整備する。（総合）
300	Ⅰ	4	⑨	自己点検評価及び外部評価の社会に対する公表					○																		平成27年までの各種報告書及び平成28年度の年度計画をウェッブページに公表している．（企画主事）	A（企）	A	A	本年度に引き続き、平成28年度までの各種報告書及び平成29年度の年度計画をウェッブページに公表する。（企画主事）
301	認	4	⑩	○学校独自の自己点検(総合的な活動)評価書作成・公表					○																		平成25年度より毎年作成している．（企画主事）	A（企）	A	A	平成25年度から毎年作成し、公表しており、次年度においても、引き続き取り組んで行く。（企画主事）
302	外	4	⑩	外部評価委員会の開催および審議内容の検討					○																		12月22日に開催し、外部評価報告書を作成中である。作成後は、関係機関に送付し、合わせてウェッブページで公表予定。（企画主事）	A（企）	A		本年度に引き続き開催する。審議内容については、本年度の指摘事項等を踏まえ検討する。（企画主事）
303	Ⅰ	4		教育改善案件の予算審議方法検討	○																				○		予算逼迫から特別事項経費に配分できず，特別な配分は行えなかったが，各学科の要望に数十万円規模で配分した．（教務主事）	B（教）	B	A	
304	Ⅰ	4		科研費申請補助に伴う教育研究費配分方法検討（第3回学科長委員会）	○																						本年度から科研費申請者に対して、研究費の支援を行った。（教務主事）	A（教）	A		引き続きインセンティブを設ける．（教務主事）
305	Ⅰ	4		創基75周年・高専創設50周年記念基金事業の実施		○																			○		創基75周年・高専創立50周年記念基金実施要項に基づき基金事業作業部会を立ち上げ、ワゴン車を購入（9月13日納車）した。（総務課）	A（学） A（総）	A		次期主事に引き継ぎます。（学生主事）
306	Ⅰ	4		後援会・同窓会との連携強化（懇談会等の開催）（第1回学科長委員会）	○	○	○																		○	○	後援会については，5月14日の理事会へ校長，教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科主事が出席し，現状報告と予算協議を行った．また10月1日の理事会へ校長，教務主事，学生主事が出席して平成28年度前期の状況について報告した．（教務主事） 同窓会については，6月11日の評議員会へ，校長，教務主事，企画主事が出席した．また，各支部の総計への学校からの出席は以下のとおり．（敬称略） 北九州6/25　校長，松田(貴)，東海7/3 校長・企画主事，福岡7/23 校長・渡邊，関東9/25 校長・中島め，関西10/22 校長・宮崎。（教務主事） 後援会による課外活動の支援に関して、後援会との連携が取れるよう支援基準を見直し、後援会に確認を依頼している。（学生主事） 後援会理事会に担当者が出席した。（総務課）	A（教） A（学） C（総）	A		引き続き，後援会・同窓会との連携を進める．（教務主事） 後援会との信頼関係の回復に努めます。（学生主事） 引き続き、後援会について本校関係者の理事会参加、予算案作成等に関し協力し連携を図る。（総務課）
307	Ⅰ	4		寮生保護者会設立の検討（第1回学科長委員会）			○																			○	久留米工業高等専門学校寮生保護者会を設立した。(寮務主事）	A（寮）	A		寮生保護者会との連携を密にし、円滑な寮運営を行う。（寮務主事）
308	Ⅰ	4		教職員の健康管理の取組推進																					○		毎週水曜日を定時退庁日と定め、毎回メール通知により周知に努めている。また、毎月1回産業医面談の機会を設け、希望者や面談が必要な対象者に対し面談を実施している。なお、今年度からストレスチェックの導入を行い、その結果、ストレス度が高いと判断された職員に対する産業医による面接指導を今後実施することにしている。その他、職員の定期健康診断や特殊健康診断以外にも女性検診を実施し、職員の福利厚生への取組を推進している。 今年度前期実績：産業医面談5件、職員健康診断9月23日実施、女性検診受診者15名（希望者のみ受診）。（総務課）	A（総）	A		平成28年度に引き続き、定時退庁日の周知、産業医面談、ストレスチェック、健康診断の実施を行う。（総務課）
309	Ⅰ	4		新任教員アドバイザー制度の導入（第1回学科長委員会）	○													○	○			○	○		○		平成28年4月に一般文科1名，機械工学科1名，電気電子工学科1名の採用を行い，それぞれに新任教員アドバイザーが任命された．また，5月25日に校長，主事，新任教員アドバイザー，新任教員による懇談会を開催した．（教務主事） 新任教員アドバイザーとして、年齢の近い南山講師にお願いした。（機械） 学科長を割り当てた。（電気） 該当なし（材料） アドバイザー制度を導入した。（文） 新任アドバイザー制度を導入した。（総務課）	A（教） A（機） A（文） A（総）	A		平成29年4月採用の教員3名について，それぞれアドバイザーが決定している．（教務主事） 平成28年度に引き続き、新任教員アドバイザー制度を実施する。（総） 該当なし。（機械） 必要に応じて対応（電気） 新規採用教員にアドバイザーを任命する予定（材料） 来年度は該当なし（文）
310	Ⅰ	4		職員SDの実施方法検討（第1回学科長委員会 資料3-01）	○																				○		企画委員会にて，現在行っているSDは，教育研究支援室の年次報告会の性格が強い．平成29年度からの組織改革に併せて，職員SDを開催することとした．（教務主事）	A(教）	A		職員SDとして実施される見込み．（教務主事）
311	Ⅰ	4		管理職による教員面談の実施	○																						校長が新任教員に対し実施した．（教務主事）	A(教）	A		引き続き実施する．（教務主事）
312	認	4		△教職員に対する各種委員会等の議事要旨開示																					○		委員会等終了後、各担当者が議事要旨をサイボウズに掲載した。（総務課）	A（総）	A		引き続きサイボウズに掲載する。（総務課）
313	Ⅰ	4		専攻科特別研究担当者への教育・研究費支援の実施	○			○																			校長裁量経費からの補助継続（専攻科2年生の指導1人につき5万円）。（専攻科主事）		A		
314	Ⅰ	4		外部資金獲得案件の調査及び関係者への周知																					○		総務係から、募集案件を随時メールで周知した。（企画主事） 科研費の校内申請・採択状況及び国立高専の申請状況を学科長委員会にて報告した。応募案件は随時周知している。（総務課）	A（総）	A		総務係から、募集案件を随時メールで周知した。（総務） 科研費の校内申請・採択状況及び国立高専の申請状況を学科長委員会にて報告する。（総務）
【Ⅱ 業務運営の効率化に関する事項】																															
315	Ⅱ			運営費交付金及び一般管理費の高専機構数値目標に沿った効率化実施																					○		紀要CD化、日直業務の契約変更等に取組み、機構数値目標に沿った効率化を実施した。（総務課）	A（総）	A	A	

316	Ⅱ	配分予算内での経費の戦略的かつ計画的な配分																					○		学科及びセンター等の要望を調査・順位付けし、優先度の高い案件について重点的に配分を行った。また、追加予算については、営繕工事の補填及び安全対策工事に充当した。(総務課)	A(総)	A		近年の予算削減を鑑み支出のスクラップアンドビルドを検討する。(総務課)
317	Ⅱ	入札及び契約の適正な実施																					○		機構規則や関係法令に基づき適正に実施した。(総務課)	A(総)	A		機構規則及び関係法令に基づき適正な入札及び契約を実施する。(総務課)
318	Ⅱ	予算案の策定と関係者への周知	○																				○		予算配分の基本方針に関すること，教育研究費および教育研究旅費，特別事項経費，管理経費等について予算委員会(主事，学科長，事務部長，総務課長．6月16日)で検討し，第3回学科長委員会(6月23日)で審議・決定した．この予算は学科長委員会資料として校内に公開され教職員へ公開された．(教務主事)	A(教)	A		委員長・校長先生，副委員長・副校長企画主事で編成される．(教務主事)
319	Ⅱ	会計検査等の適正実施																					○		機構本部が作成している「公的研究費に関する内部監査マニュアル」及び久留米工業高等専門学校会計監査実施規則に基づき、適正な監査を行った。(総務課)	A(総)	A		機構会計規則及び久留米工業高等専門学校会計監査実施規則に基づき、適正な会計検査等を実施する。(総務課)
	【Ⅲ 予算】																												
320	Ⅲ	共同研究、受託研究、奨学寄附金、科研費などの外部資金獲得の推進					○			○						○	○	○	○	○	○	○			科研費申請説明会の実施、科研費不採択者の校長裁量経費による支援、機構・他高専状況の周知、科研費代表申請者に対する予算支援を行った。(企画主事) 共同研究、受託研究等の周知のほか、27年度から募集のあった高専機構研究プロジェクト経費助成事業にも引き続き応募し、1件継続採択されると共に、今年度から受託事業取扱規則を制定し、2件の事業委託を受けるなど外部資金の獲得に力を入れている(産学民)。 外部資金獲得のために企業と共同研究に向けての情報交換を行った。すべての教員が科研費の申請を行う予定である。(機械) 科研費新規1名獲得。科研費は出願可能な教員は全員応募した。(電気) 数名の先生において他大学との共同研究・受託研究を行っている。また、全教員が科研費申請をするようにしている。(制御) 科研費は全員申請。(生化) 科研費(1件)、共同研究、奨学寄付金など数件実施中。(材料) 推進している。科研費は2件採択中である。(文) 科研費の申請率を100%にしていただくよう周知した。(理)	A(企) B(産) A(機) A(電) A(制) A(生) A(材) B(文) B(理)	A	A	引き続き、科研費申請説明会の実施、科研費不採択者の校長裁量経費による支援、機構・他高専状況の周知、科研費代表申請者に対する予算支援を行う。(企画主事) 学内において、共同研究、受託研究等の周知を進め、外部資金の獲得推進に努める(産学民)。 今年度と同様に実施予定。(機械) 例年通り対応予定。(電気) 次年度も同様に実施する。(制御) 次年度も鋭意努力する。(生化) 方針の変更なし(材料) 継続(文) 次年度も科研費の申請率を100%にしていただくよう周知する。(理)
321	Ⅲ	予算の効率的執行	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	△	寮生活環境整備経費(390万円)および寮費(施設補修費：160万円)については、寮設備等の改修の緊急性に応じて効率的に執行している。寮費の他項目に関しても、予算案に順じ効率的に執行している。(寮務主事) 該当予算なし。(企画主事) 学生用図書については、年2回、各学科へ選定依頼をし、学生のために必要な図書を計画的に購入している。専門書等については学生からのリクエストにも応え、予算の有効活用を図っている。また、研究用データベースや電子ジャーナルの購入については、予算の効率的な執行という視点から、図書委員会で次年度の継続等を検討している。(図) 各種研修会参加のための出張旅費、消耗品の購入や各種ソフトウェアーの更新費用などを効率的に執行した。高速(1Gbps)なネットワークを運用、管理するために必要な機器を購入する予定である。引き続き計画通りかつ効率的に予算を執行する。(総合) 産学民連携テクノセンター報2016の作成費用や技術発表参加のための旅費等など予算の効率的な執行に努めている(産学民)。 予算のかかっていた相談室だよりをカードの形式に変更し、予算削減を行った。代わりにウェブページの更新に今後力を入れていく予定である。(相談) 毎月の学科会議で予算執行状況を確認し、予算の効率的執行に取り組んでいる。(機械) 計画的に執行するように学科会議で依頼。高額な学生実験の機器が故障したたため、計画して予算を浮かせ、無事に修理完了した。(電気) 年度末卒研関連修理費のため，若干予算オーバーとなった。(生化) 毎月の学科会議で予算執行状況を確認し、予算の効率的執行に取り組んでいる。(材料) 効率的に執行している。(文) 効率的な予算の執行に努めた。(理) 予算の計画的執行のため毎月の執行額(各学科分)を学科長委員会を通して学内に周知した。(総務課)	A(図) A(産) A(電) A(生) A(材) B(文) B(理) A(総)	A		該当予算なしの予定。(企画主事) 次年度も継続する。(図書館) 産学民連携テクノセンター予算の効率的な執行に努める(産学民)。 次年度も効率的に執行していきたい(相談) 例年通り対応予定。(電気) 次年度も継続していく。(生化) 方針の変更なし(材料) 継続(文) 次年度も効率的な予算の執行に努める。(理)
322	Ⅲ	随意契約の見直し検討																					○		機構契約事務取扱規則に基づき、適正に実施している。(総務課)	A(総)	A	A	
	【追加事項】		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					